

## 令和元年第6回（12月）出雲崎町議会定例会会議録

議 事 日 程 （第2号）

令和元年12月9日（月曜日）午前9時30分開議

第 1 一般質問

---

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（10名）

1番	小黒博泰	2番	中川正弘
3番	中野勝正	4番	高橋速円
5番	諸橋和史	6番	加藤修三
7番	三輪正	8番	安達一雄
9番	高桑佳子	10番	仙海直樹

○欠席議員（なし）

---

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	小林則幸
副町長	山田正志
教育長	佐藤亨
会計管理者	池田則男
総務課長	河野照郎
町民課長	金泉嘉昭
保健福祉課長	権田孝夫
こども未来室長	矢川浩之
産業観光課長	大矢正人
建設課長	小崎一博
教育課長	矢島則幸
産業観光課参事	内藤良治
総務課参事	金泉修一

---

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	権頭昇
書記	佐藤理絵

---

◎開議の宣告

○議長（仙海直樹） ただいまから本日の会議を開きます。

（午前 9時30分）

---

◎一般質問

○議長（仙海直樹） 日程第1、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

---

◇ 諸 橋 和 史 議員

○議長（仙海直樹） 最初に、5番、諸橋和史議員。

○5番（諸橋和史） まず、おはようございます。質問の前に10月の12日、台風19号による豪雨災害から2カ月たち、90名以上の方がお亡くなりになり、お亡くなりになった方に哀悼の意を表します。ともに被害に遭われた地域の皆さんが一日も早く、もとの生活に戻り、何とか年が越せますよう心から願っております。きょうは晴天ですし、町長の明快な答弁をひとつご要望いたしますので、よろしく願いいたします。

質問に入ります。出雲崎町10年から20年後のためにということで質問いたします。町民の大多数が国道352号線の長岡地域のバイパス化について、長岡三島側の改良、バイパス化が急がれている。町民が要望しております。町長は、次期町長選に参戦ということで6月議会で表明しております。国道352号線については一般質問で数回質問していましたが、町内の米田、展望坂、住吉町の交差点の改修にめどが立ちました。それで、これまでは強く余り要望はできなかつたんですけども、一応めどがつきまして、方向性がついたということで、今回長岡の要するに352のバイパス化が改良工事の要望を町長側が県、長岡市を含めて行政区は違いますけれども、町長はこれに対してどうお考えか町長お聞かせ願いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 諸橋議員さんのご質問にお答えをしたいと思うわけでございますが、ご意見のとおり国道352号の長年の悲願でありましたところの展望坂石井町工区あるいは松本工区についても着手されたということで本当に喜んでおるわけでございますが、まだこの役場周辺のゾーンも大変狭いということでございますので、さらなる改良が必要というふうに考えているわけでございますので、まず諸橋議員さんのご質問のとおりでございますが、まず私たちといたしましては、この事業に着手をしたこの改良について一日も早い完結を待って、今ご意見のように次なるネクストのいわゆる三島地区のバイパス等の拡幅工事について真剣に取り組んでいかなければならないというふうに考えるわけでございます。しかし、この新しい工区につきましては、やっぱり長岡市を初め、

国道352号線の改良につきましては、それぞれの関係町村が団結をしながらお互いに国に対して改良要望をしておるわけでございますので、まず基本的には今進められております改良工事を一日も早く終わらせて、このめどがついた段階で速やかに議員さんのおっしゃるような三島地区の改良、バイパスを含めた事業に積極的に取り組んでまいりたいというふうに考えるわけであります。やはりかって中永線のトンネルにつきましては、これも長年の悲願でございましたが、これは出雲崎町の力ではなかったわけです。本当に近くの三島の皆さんから大変なご協力をいただいて、完結に至ったという経緯もございますので、町としての願いとともに申し上げましたような近隣の長岡市初め、関係団体の皆さんとしっかりとスクラムを組んで意思疎通を図りながらこの工事を進めてまいりたいというふうに考えています。

○議長（仙海直樹） 5番、諸橋議員。

○5番（諸橋和史） できる限りこの要望を県なり国なりに伝えてもらいたいし、10年後、20年後という短いスパンではないですから、ひとつ方向性を町長のほうから示して強力に進めてもらいたいと思います。実は12月の7日の土曜日に中越版で国道352のバイパス化、小出奥只見線ということで出ております。早期開通を目指すということで、期成同盟会の総会が開かれたというような記事が載っています。1988年に始まり、2010年度に完成予定がまだできない。そういうような現実の中で、今進めなければ10年後、20年後の出雲崎が埋没してしまうのではないかというような懸念に立たされております。正直とにかく強力に要望なりをしていかなければならないと思います。例えば現長岡、寺泊から長岡へ抜ける2線あります。また、和島から長岡へ抜けるトンネルも2線あります。また、西山から薬師含めて2線あります。出雲崎は1線に頼っております、長岡へ抜ける道というものは、その1線を改良しなければ本当に立ちおくれるのではないかというふうに懸念するんです。そこらのところどういふふうにお考えかちょっとお聞かせ願いたい。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 諸橋議員さんの今のご説明のとおり、本当に各地域ともこのインフラ整備、特に道路関係の整備というものはそれぞれ喫緊の課題として取り上げておるわけでございますし、今のお話にもございましたように願いながらも何十年もたっても完結に至っておらないという事情もでございます。その中にやっぱり国の関係予算等もでございますし、いろいろあるわけでございますが、やっぱり諸橋議員さんのおっしゃるように今私たち町としてはこの大きな事業のいわゆる改修が始まるわけでございますが、将来的展望としましてはやっぱり今から出雲崎もネクストの改良についてはいわゆる今この後またご質問ございますが、北インター付近の企業誘致という問題考えますと、これは早急にこの面が改良されますと大きな恩恵をこうむるということはしっかりと理解できるわけでございますので、先ほど申し上げたことは事実でございますが、今からやっぱりネクスト、次なる改良は今議員さんのおっしゃったそういう問題についてひとつ私は問題提起したいということで近隣市町村にも伝えながら協力を仰ぐということが大事だと思いますので、一朝一夕にはならな

いわけでございますが、やっぱり早くからそういう意思を伝えるということが大事だと思いますので、今後ともその活動の中で展開してまいりたいと思います。

○議長（仙海直樹） 5番、諸橋議員。

○5番（諸橋和史） 決算書の中では、今まで三、四年ぐらい前まで一般国道352、柏崎一魚沼間改良整備促進期成同盟というので5,000円の会費というものが決算書では上がっておったわけなんですけども、28年ごろから期成同盟の会費というものが決算書の中では上がっていないわけなんですけども、我々とすればどうなっているのかなというような懸念が私個人はありました。そんな中で私見ではありますけれども、今現在蓮花寺に入る第一中永橋という橋があります。あの辺から極端に狭くて、それでも出まして駐車帯があります。あそこは結構広いんですけども、私の私見なんですけども、あそこから川を渡り、山側に入ってバイパス化というものを要望してはどうかということなんですけど、上条の付近はカーブもきついですし、また家並みも結構あります。なかなか拡幅といってもそう安易なものではないと思います。それで、脇野町の山芳商店のあの十字路に向かうあそこらにバイパス化で交通の便をよくできないか、そういう考えを私個人は持っております。長岡から出雲崎へ通う各種団体、企業の方もいらっしゃいますし、また行政の職員の方も向こうから通ってくる方もいらっしゃいます。また、町民にとっては非常に大事な動脈であります。116は改良されて非常にいい道にはなっているんですけども、352はいかんせん各地域、私も走っていてどれが352かわからないところが多々あります。正直言ってこれに対して町長のお考え少しお聞かせ願いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 諸橋議員さんの現状に沿った中における次なるネクストであるバイパス的な法線構想というものがお話をいただいているわけでございますが、実際352を起点から終点までの間に全くまだ国道としては車も通れないような場所もあるわけですので、先ほどのいわゆる期成同盟会の予算等々についてお話がございましたが、私たち近隣関係する5市町村が期成同盟会をつくりまして、常に国、県にも要望しております。予算はさることながら活動としてはより活発に進めておるわけでございますので、そういう中においてこれからの課題といたしまして、やはり今お話のございましたようなことも出雲崎町では話題となり、ひとつ期待を込めながら早く改良してもらいたいという願望を込めた願いがあるんだということは伝えながら行動してまいりたいと思いますが、何しろ国も今こういう状況でございますし、防災、減災等につきまして国土強靱化、これを3カ年さらに延長ということをお願いしておりますが、これについては予算的な関係でまず無理じゃないかというような予測も立っております。そういう状況でございますので、やはり我々は希望、期待を込めながら行動はしていかなければならないわけでございますが、現実もございまして、やっぱり現実に即した中におけるネクスト、次なる願いとか、構想というものは伝えながらも、これを簡単にはまだ、まずこの改良もどのくらいかかるのか。若干これは相当の公費を要しますので、

時間もかかると思います。だから、今始まったばかりですから。今この事業費も約14億から15億という膨大な金が入っているわけでございますし、この工事期間も今後また6年間なり7年間という予測をされているようでございますので、しかしおっしゃるように今からやっぱりそういう期待を込めながらもひとつお願いをしていこうということが大事だと思いますので、諸橋議員さんのご意見をしっかりと受けとめながらひとつまた行動を起こしていきたいと。ただし、今即工事始まったんですからもうすぐ次やってくれといってもなかなかこれは難しい問題があると思います。ただ、難しい問題があるんですが、出雲崎町としては将来的に改良を進められておるその次の段階をひとつまたこうふうを考えているんだということは意思表示をする必要あると思いますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（仙海直樹） 5番、諸橋議員。

○5番（諸橋和史） 私も一朝一夕にできるとは思っていません。それで10年後、20年後の出雲崎を考えるとというふうにごこの中に一部入れさせてもらっているわけなんです。本当に私はその道に対して車で走られるかどうかわかりません、年齢的にも。町長も恐らくわけわからないんじゃないですか。正直その10年後、20年後の夢を目指してやっぱり今から行動しなければ私はだめだと思っております。それにも関連いたしまして、また次の質問に移らせてもらいます。

町長は以前から長岡は通勤圏内と話しているが、国道352の改良に伴う下記4点を伺いたいと思います。まずは、観光事業の展望なんですけれども、先ほどからお話ししておりますけれども、北インターが開通いたしまして、工業団地ができて、まして大河津分水の改修というふうな大きな事業が今国で進められており、また長岡市で進められております。その中で県道長岡寺泊線の改修というような話も聞こえてきております。そんな中で出雲崎の観光地、これが1つの基盤となるものになるのではないかとというふうには私は思っております。やはり352の改修がひとつ出雲崎に寄ってもらう物事の基本だと私は思っておるんですけれども、あの狭い道を大型バスが通るのもなかなか難儀なものが感じられます。そういう面で観光に対するこの352というものをちょっと考え方があったら教えてもらいたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 観光の基本というものは、やっぱり3点あるのかなというふうに思っています。まず第1には、地域の宝、資源を大いに活用するというのが第1点でございますし、また第2点につきましては、やっぱりそれを受け入れる体制、これは今おっしゃるようなアクセスの問題もございまして、あるいは宿泊施設なり、あるいはもてなしのいわゆる気持ちなり、そういうものが大事だと思いますし、さらにやっぱり地域間の連携、これがやっぱり最重要になってくるかと思いません。そういう点からしますと、やっぱり地域間の連携ということになりますと、アクセス関係についても本当に来やすいような状況を整えるということが最も基本だと思うわけでございますが、これらにつきましては先ほど来申し上げたとおりでございますし、また第1点の地域資源の再開発と

いうことにつきましても、まち・ひと・しごと創生総合戦略、その中において新しい試みも取り入れるというようなことで取り組んでおるわけでございますし、また受け入れ体制につきましても、この後またいろいろ皆さんからご質問出ようかと思いますが、外国人の来客数が3,000万人を超えたというような状況の中における町の体制というものをやっぱり将来的には考えていかなきゃならんというふうに思っているわけでございますし、また今申し上げますアクセス関係についても最大限の努力をしながら、それでも展望坂の長年の悲願がようやく日の光を見たということでございますので、物事はやっぱり求めるものが大きく、それに対する歩みを、非常に諸般の情勢は我々考えるような甘いものではないが、しかしもう真摯にひたむきにその実現に向かって努力すると、これが必要なんです。資源の関係もございますので、その辺も十分考慮しながら、総合的に判断をしながら、その中における一つ一つの小さなまず拠点、歩を進めるということが大事だと思いますので、1つの目標は大きく、それに向けての歩みを着実に進めるということが私は大事だと思うんです。そういう点で今申し上げますようなことにつきましても、1つはこれからまたご審議をいただくわけですが、観光関係についてもそういうアクセス的な少々のハンデは乗り越えながらも、しっかりと出雲崎町を売り込むということに対する着実な歩を進めたいというふうには思っています。

○議長（仙海直樹） 5番、諸橋議員。

○5番（諸橋和史） 今の現実が厳しいというのは、県財政、国の財政、いろいろな諸問題から承知はしております。また、観光問題についてでもそうなんですけども、この前寺泊にちょっと出雲崎でアナゴを売っていないんで、アナゴを買いに行ってきました。そうしたら、痩せたアナゴが竹に張りついて、とてもじゃないんですけども、今までこれなら浜焼きの出雲崎のサバのほうがよほどおいしいなというふうに感じて、観光の拠点となる物事がそういうふうに、寺泊で買ったアナゴはとてもじゃないけど、竹だか薄い皮がついているだけで本当に私個人とすれば美味とは感じられない。今まで出雲崎で食べていたアナゴとはちょっと違うような感覚でした。観光の拠点となる物事を発展させるには、やはり道、インフラなり物事がないとやっぱり地域住民もこれをやってみようかという気力にもならないだろうし、方向としてはこれは今端的に来年どうのこうのという話ではないですから、ひとつ町長任期の間に方向性を見出して物事を進めていってもらいたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

次に、質問を伺います。北インターができて、いろいろな諸条件の中で物事は進んでいるんですけども、先般例えば町村会長の講演会がありますと。その中で私はこの原文というものは非常にいいものだと思って感じております。出雲崎の人口の将来から物の考え方、出雲崎の人口1.2%増やすとよそに現状維持以上のものが出てくるという、所得も1%ですか、そういう物事の試算が載っております。これを目指すにもいろいろな方向性はあると思います。町長のちょっとしたこれのお考えのことをちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 確かに先般の講演も非常に有意義なものであったと思いますし、今おっしゃるように2%出雲崎町の人口を増やすことによって2040年問題も解決できるだろうというその推計がなされているわけですが、2%といいますと。

〔「1.2です」の声あり〕

○町長（小林則幸） 1.2だったかな。1.2としますとちょっと数字も大きくなるわけで、42人かな、実際その程度の数字ですと確保できる可能性も私はあると思う。例えば皆さんに申し上げているんですが、全くの推計ですが、出雲崎町も、今これは新聞に出ていますように子供の生まれる数80万人になったと。もう統計として以来の大変厳しい状況が生まれているということが報道されております。うちの町は、これは私担当課長にも何回も確認をしておるんですが、令和元年度の出雲崎町の出生するお子さんの生まれる数は、過去3年間の数字よりも年々の数字よりも上回るという推計がなされております。さらにいわゆる社会動態、町から出られる方、入る方、社会動態、自然動態は厳しいです。社会動態もプラスになるんじゃないかという推計がなされております。と申しますと、やっぱりこれからの町はまた皆さんのご理解をいただいて10日の全員協議会でも新たな展開を町を進めますが、私は確実にある程度今まで進めてきた政策の中における最も基本的な人口を増やす、その効果が生まれつつあると私は確信しています。さらに第2段としての次なる出雲崎全国にまれなる対応するんですから、私はある程度出雲崎町もその数字を確保できる、しなければならぬという一つの前向きな推計の中で、あらゆる政策を総動員するということが大事だと思うんです。そういう意味で今厳しい中ですが、出雲崎も若干他とは違った明るい方向は出ているのではないかというふうに思っていますので、さらに磨きをかけて、これ私の力ではないんです。やっぱり議会の皆さん、町民の皆さんの創意と知恵と汗を結集した中にやらなければならない。そういうものを十分受けとめながら全力を挙げてやっていきたいというふうには思っています。

○議長（仙海直樹） 5番、諸橋議員。

○5番（諸橋和史） とにかく頑張って、この答えが出るものと信じておりますので、町長には非常に頑張ってもらいたいと思っております。

次に、企業誘致の話なんですけども、これも352と比べまして、いろいろな質問の中でひとつ簡単にお聞きいたします。例えば今北インターの付近に工業団地の造成が盛んに進められておりますし、そんな中で町長は今までの中で長岡通勤圏でというような発言もされております。しかしながら、この小さな町ですけども、大企業を誘致しようとかというものではないんですけども、ある程度小規模な企業でも誘致するお考えはないのかどうなのか。例えばそれに対する行動を起こさないのかどうか。

それともう一点なんですけども、最近起業家という自分で町の個人企業を起業する人たちが非常に少なくなっていると思っております。いろいろな面でインフラなりそれなりのものが不足してい

るのではないかというふうを考える中で、企業誘致、また町の要するに起業する人たちの支援というものの考え方、これはこうするとかああするとかという結論が欲しいわけではないんです。前向きに考えていくというような答弁でいいんですけども、ひとつ答弁をお聞かせ願いたいと。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） かつて私も農村工業導入促進法に基づきまして、企業誘致をもう積極的にやりました。F A新潟あるいはまた二、三の企業が企業展開しております。それなりの業績を上げているんです。その当時企業誘致に最も苦労したことは、企業に働きかけたときにあなたの町で本当に100人、150人規模の働く人を確保できるのかと、これを確約しなさいと。これは厳しかったんです。でも、当時それができたんです。かつてのテクノ新潟、今F A新潟ですが、あるいは野川ジェントリーとかできたんです。要望どおりに応えられたんです。でも、今はちょっと状況は変わっています。今有効求人倍率は1.60でしょう。売り手市場なんです。非常に厳しいんです。かつてのような有効求人倍率が0.何がしですと大変ですよ。やっぱり私は今そのことがもう本当に振り返ってみますと厳しい状況に置かれたのです。働く人を確保できるのかと、これだったんです。当時は確保できました。でも、今はなかなか厳しいんですわね、今有効求人はただし、今諸橋議員さんおっしゃるように、私やっぱり出雲崎町は大企業誘致というものについては、これは北スマートインターチェンジ、ああいうところで対応しながら、あなたの言うベンチャー企業、そういう個人が企業として興すなら私は積極的に応援したいです。そういう今時代です。先ほどあなたおっしゃった町なりの特有の資源を生かす、そういうものに対してそれならお互いが企業を支えてやろう、町はもう全力を挙げて応援したいと思うんです。そういう時代です。すみ分けをしなければならない時代です。大企業誘致なんて簡単にできるもんじゃない。労働力確保できますかって、これ私は確約はできない。かつてとは違います。そういうことですので、今の社会情勢、そういう環境等を考えたときにおいては、諸橋さんおっしゃるように私はやっぱりこの小さな町の中において、よし、新しい企業を興して何とか頑張ってみようという人が欲しいんです。そうなった町を私はもう全力を挙げて応援したいと思います。そういう方向に持っていくようなしなかけを今後していきたいというふうには思っています。

○議長（仙海直樹） 5番、諸橋議員。

○5番（諸橋和史） 最大限努力してもらいたいんです。我々の世代のときは、米だけでは食べていけないから牛を飼うとか何かをしようとかという少しながらの意欲はありました。そういうような人間が出てきてもらえると非常に助かる。ここの土地に住んでいていいというような考え方が出てきます。それにはやはり先ほどから言っている352の改良というものが、バイパス化というのが1つ問題もあるのかなというふうに考えております。

最後の質問になります。子育て支援や子供の医療の無償化は、町は県のトップを走っているものと思っております。今後国道のバイパス化を見据えた上でPRできると思いますが、空き家対策、

またいろいろな各団地の中にまた空き地が生まれつつあります。川東を含めて私も親戚があるんで、お聞きするところによると空き地もあるというような話も聞いています。また、てまりもそういうような状況になりつつあります。これは、我々の世代があそこに住んで今現在子供たちが出ていったというような状況の中で、だんだんこの空き地化、住まなくなるというのが一つの現象だと思っております。その対策なんですけれども、いろいろな方策はあるんですけども、私の調べた中ではデュアルライフというものがございます。2拠点化ということで、都会に住んでいて田舎暮らしをすると、田舎暮らしをして都会生活をするというような生活スタイルもあると思う。そうすると、例えば空き家の対策、例えば畑をしながら都会で生活をする、また都会で生活しながら田舎で拠点を持つ、いろいろな方法があると思うんですけども、そういう物の考え方というものもあると思います。それで、保育料の無償化というようなことも高校生まで、本当にこの町は子育てに関しては今の現実是非常にすぐれたものがあると思います。そういうものをもう少しPRしていくには、やはりいろいろな方策を考えていかなければならないのではないか。滝谷にも空き家ありますけれども、住まないと荒れてきます。本当にいつ割れたかわかりませんが、ガラスが割れて、まだ住まれるのにガラスが割れて、あそこから風雨が入るというふうになってくるとだんだん傷んでいきます。対策は一石二鳥にちょっといかないと思いますけれども、ひとつその考え方ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 諸橋議員さんもうどうでしょうか、農業新聞をおとりになっているか。また、最近の新聞見ましても、いわゆる首都圏、近畿中部圏域の3割の皆さんが田園回帰基調が鮮明になっていると。田園基調の流れが鮮明になっているという記事が出ておりますが、まさに私はそうだと思うんです。そういう観点からいたしまして、今諸橋議員さんがおっしゃるように都会に住みながらも田舎のよさというものを鮮明に打ち出していく必要があると思っています。特に最近テレビ、いわゆる首都圏の直下型地震とか大災害が起きたらどうなるのかということをもう次から次へと報じています。私たちは、東京行ってもうかうかしておられません。いつ直下型地震が起きたらどうなるのかという本当に危機感に迫られている。私は、そういうところに住んでいる人たちも、ああいう報道、あれは現実です。ああいうのが起きたらどうなるのか。そうなったときに改めて過密の都市に住むことが本当にベストなのか。やっぱり将来的にはある程度交通の便もよい、そして環境もよい、そういうところの中において余生をしっかりと暮らしたいという人は、そのいわゆる数が3割、回帰基調が鮮明だという記事になっているんです。私やっぱりそういうチャンスを捉えて、おっしゃるように町のよさを積極的にPRをしながら皆さんからおいでいただくと。そういうことにはやっぱりもう地道に一つ一つやる、そのことが効果を及ぼすと思うんです。だから、私はやっぱりこれからは本当にこのチャンスを捉えて、この厳しい状況の中における皆さんとともに政策を総動員して徹底的にやるという方針じゃなきゃだめですよ。本当に誰が何だかんだって出雲崎は出

雲崎らしくきちっと政策を出して、よそと違ったことを鮮明に出して、出雲崎というのを売り込まなきゃならない。そういう一つの覚悟を持って今回対処しなきゃなりませんよね。そういう意味で本当に今諸橋議員さんおっしゃるように、今のいわゆる災害とかいろいろな問題を捉えながらの、私は出雲崎町の安全衛生をまず確保しながら、そして住みやすい町、本当に子育てもよし、生活環境もよしというような状況を一つ一つの政策の中に打ち出していかなきゃならんと、私はそう思っています。そういう意味でこれから先ほども申したまち・ひと・しごと創生総合戦略第2弾ですが、徹底的に進めてまいりたいということで、それぞれの皆さんの知恵を結集した中において、令和2年の4月から新しいちょっと展開をしたいというようなことで、また皆さんにご報告申し上げ、ご理解をいただき、ご支援いただきたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 5番、諸橋議員。

○5番（諸橋和史） いろいろ聞いてきた中で1つ。これ通告にないですから、答弁はいいんですけども、柏崎原発も含めて避難場所が出雲崎の場合関川村というふうになっております。避難をするということになるとなかなか大変。出雲崎町だけではなくて、周辺住民の方も多数いらっしゃいます。そんな中でやはり352のバイパス化というものは非常に大事ではないかということを考えております。今後町長の任期、新しくなれば4年というものがあります。その中で一つの方向を進めていってほしいと思いますが、それはいかがでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今原発のもし事故が起きた場合における避難というものに対するアクセスがしっかりと届いておらなければ応えられないということは当然です。やっぱりそういうことに対する私たちの町も進めていますし、あるいは広域的にこの原発事故を想定しながらの避難訓練がなされております。まだまだあんなもので事はおさまらない。おさまるわけありませんよ。そういう意味でもっとより現実的に置かれている状況をしっかりと、諸橋議員さんおっしゃるようにアクセスからどういう形でどうするのかというものをしっかりと構築していかない以上はこの問題解決はできないと思うんです。それにはやっぱり私たちも率直に申し上げまして、その道路のアクセス等の改良については、原発問題が起きたらどうするのか、そこにおけるまず希望はもう避難をするところの道路の確保、それがまず基本だということを申し上げているんです。そういう意味で今回のまた改良につながっていますし、また今後議員がおっしゃるようなことについてもそういうものの県も大きな課題を抱えておりますので、その課題とあわせての問題を並行させながら論議を進め、また実現を図っていく必要があるというふうに考えています。

○議長（仙海直樹） 5番、諸橋議員。

○5番（諸橋和史） もう時間も大分経過していますし、とにかく352のバイパス化、ひとつ私個人の要望かもしれませんが、ただ、町全体を考えると町民各位から結構意見はもらいます。そういう意味で町の行政も長岡市、県、また今町長前からおっしゃっている花角知事でもありますし、また出雲

崎と因縁の深い磯田市長でもあります。そういう関連の中でひとつこの事業もしよかったら進めて、私も幾らでも協力しますから、よろしくお願いします。

以上で質問終わります。

---

◇ 加藤修三議員

○議長（仙海直樹） 次に、6番、加藤修三議員。

○6番（加藤修三） きょうの晴天、年末の貴重な日に傍聴においでいただきありがとうございます。我々も充実した質のある質問で実のあるものにしたいと思っております。

新潟県景勝100選1位のすぐれた景観、天領地であり、松尾芭蕉、良寛など多くの文化人も来町し、風貌のあった歴史ある町は、良寛さんの俳句にあるよう、来てみれば我がふるさととは荒れにけりと、今の現状と寂れた町になっており、昭和63年2月に町長に就任されたころの人口は約6,600人くらいで、町長8期の任期中に少子高齢化、人口の減少がとまらず、人口は4,300人と2,300人も減少し、市町村別では粟島浦村を除き県内最下位で、最高齢化、高齢化率も高く、人口減少率は県内の1、2番目と高く、出生率は湯沢、阿賀等に続き出雲崎は低く、少子化に歯どめがかからず、10年先の人口予測は3,400から3,600人とさらに減少が進み、この町の活力低下を危惧していますが、この現状をどのように考えているかお伺いします。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほども諸橋議員さんの質問にお答えをしているんですが、まさに今人口問題も少子高齢化、本当に2040年問題、いわゆる市町村も半減をするんじゃないかという大きな課題を抱えております。先ほど申し上げましたように、つい先般の新聞出ておりますように、子供さんの生まれる数も80万人台になったということなんです、これはちょうど今お話のございますように、私も町長として今32年目を迎えているんですが、その時代から人口減少はとまらないという傾向で今日に至っておるといのが現状なんです。やっぱりそういう中における非常に大きな社会的な構造的な問題もたくさんございます。そういう中においてそれぞれがその立場の中において努力はしているんですが、いかんせんそうさせてもとまらないというのが現状でございます。これにつきましても確かに政策的ないろんな面をやっているわけですが、未婚化、晩婚化、そういう時代の中において子供さんの数が少なくなっておるといこととございますし、私も今加藤議員から問われるように就任以来大変努力しながらも皆さんのお力をかりながらも人口減少はとまらない。しかし、それなりに皆さんのご協力いただいて事を進めてまいりました。例えば住宅団地の問題とかてまりの問題とか、もし仮に、あるいは子育て住宅、ああいう政策を施さなかったら今は出雲崎の人口はどうなったかということをおは皆さんに問うてみたい。それらの事業を皆さんのご協力で進めたことによって今日の現状維持ができておるといことなんです。あの事業を進めなかったらどうなったか。今回総合戦略の中における町民の皆さんのご意見、もうあんな住宅団地なんかつくるなとい

う意見もございます。それは、それなりに私は受けとめる。受けとめながらも今言うようなこのような時代の流れの中において、やっぱり町は町なりに努力しなければ、もう座して死を待つんですよ。どんどん、どんどんと人口減るんですよ。しかし、その中において皆さんのご協力であれだけのものをつくったことによって、どれだけの人口増につながったということ考えますと、私やっぱり時代の流れにただ、だくだくと流されてはならない。そこにおける町における現状、あらゆる環境なりいろいろなものを想定をする。そこにおいて積極果敢に、やっぱりこの危機を脱するという一つの行動なり政策が必要なんです。その中において所詮、今形があらわれてこないと。もどかしさを感じますが、さりとて諦めてはならない。だから、今申し上げるようにうちの町も元年においては他所は減っても増えるという可能性が出ているんです。だから、私は確かに過去の実績はしっかりと捉えながら、その中においてどういう政策をどうしなきゃならんということを考えなきゃならない。そういうことは大事なんです。これから町民を挙げてやっていかなきゃならない、そういう時代です。私は、批判は批判としてしっかりと受けとめる。受けとめながらも私は前向きにひたむきに本当に自分を捨てて町民のために町のために全力投球します。皆さんからもご理解をいただきたい。これがこれからの本当の町政のあり方です。私はそう思います。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） 前向きな力強さは感じるんですが、63年当時の県内の町村の人口で増えているところもあるんです。減っているのが事実だけじゃないです。聖籠町は、1万2,300人から今1万4,000人になっています。減っていますけども、弥彦村が8,200だったのが7,800、田上も1万2,300から1万1,100と微弱の減り方です。増えているところもあります。全国1,724市町村の中で2015年から17年の間には330の町村が増えているんです。減っているだけじゃないんです。これは何で増えているんですかということがまず言いたい。私たちも数年前に四国の香川の宇田津町に行きました。あそこはうちの町と違って、44平方あるうちの町と違って8平方しかないこの町の海沿いの町で塩しかつくっていない町でした。ここの人口は、その当時は8,000人です。今現在1万9,000人です。こういう町もあるんです。ただ、全国的にマイナスしているから、私でもマイナスの中で頑張っているんだ、そういう話は私は聞きたくないんです。町長、これはあなたの性格からいったら何くそというのがあるでしょう。もっと私は前向きにプラスになるということをもうちよっと自覚を持ってもらって意思表示をしていただきたいと思いますと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 大変厳しいご意見もいただいていますし、聖籠なり弥彦なりそれぞれのまた状況も聞かせていただいているんですが、それにはやっぱり私は単に逃げ腰じゃないんですが、聖籠なり、そういう弥彦、そういうところ環境条件が整っているんです。本当に努力しなくとも何もしなくとも人口が増えるというような、そうでしょう。企業誘致なり、そういう彌彦一宮というような、そういうところの中におけるそういうものにつられて皆さんがおいでになってくる、そういう

環境もあるんです。だから、私が申し上げていることは、もう人口だけが減るからそれが全て最低と私は考えない。しかし、その中における一人でも多くの住民から町民の人口を増やす、これは基本です。しかし、いかんせん本当に努力に努力を重ねても、そうでしょう。住宅団地やいろんなことを進めながらも、なおかつ人口が減ったということの現実はしっかりと受けとめる。しかし、それで諦めているんじゃないんです。本当に政策を総動員して全力を挙げる。こんな小さな町だと思ってなめちゃならんぞと。本当に全国出雲崎あり、新潟県に出雲崎、そういう存在価値を示さなきゃだめ。そういう気力が大事なんです。ただ、出してしまってはならない、そういう現実のもとで、ただよそのことを比較するんじゃない。その中における現状をしっかりと捉えながら、しっかりと前向きにひたむきに全力投球するというのが私の考えです。それは議員の皆さんからもご理解いただいた、そうじゃないですか。ただ、そこにはそれなりの要因がある。だから、そのためにあなた方勉強するわけだ。私も勉強行くわけ。勉強しに行ってもそのものが全て出雲崎に戻ってくるとはいかない。出雲崎町における現状、現実というのは、これは直視しなければならない。それを直視しながら、その中におけるより現実的に、よりリアルに、よりひたむきに前向きに政策を進める、これ大事なんです。ただ何もしないでやるんだったらこれ違う。しかし、そうじゃないです。そうじゃないでしょう。出雲崎だってあなた方のいろいろ貴重なご意見を取り入れながら、少しでも人口を増やすにはどうするべきか、あるいはもう入込客をつくるには、どうするかって、全て全力を挙げているんです。だから、皆さんも自信持ってもらいたい。よそがこうだから出雲崎もって、とんでもないです。やっぱり町民各位からもこの町に住んでよかったという本当に誇りと自信を持ってやってもらいたい。そのことが出雲崎の将来につながるんです。私はそう思います。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） 私は、条件がどうのこうのと、そんなことを言って逃げる話じゃなくて、やはりそういう町もある。その中でまだまだやっぱり知恵を出していただいて、私たちも町長も含めてこの減少がやはり新潟県の中でももう減少率はあそこの津南と同じような形で物すごく低い。減少率が高いというんですか、その中ではやはりそこから抜け出す。やはりまだまだ努力する価値があると思います。

これから次の質問に入っていきますけども、やっていることは本当いいですよ。住宅もあって子育て、次言いますけれども、すごくいいんです。じゃ、なぜ来ないんだということなんですけども、そういう中で次の質問に入っていきたいと思えますけども、国は本年10月から3歳児から5歳児までの保育料を無料にしましたが、当町は来年度からゼロ歳児から2歳児までの保育料を無償化する予定で県内初であり、ゼロ歳児から18歳、高校卒業までの医療費、保育料、授業料の無償化、小中学校の入学金、祝金、高校通学費助成事業、奨学金支援、奨学金返済支援、格安の住宅分譲住宅、住まい取得支援、もうありとあらゆる支援があって本当にいいところありますが、子育てのいろいろな補助事業があり、昨年子は宝多世代交流館ができ、子育てしやすい環境や住宅条件などは国内

外ではトップクラスと思っていますが、育て上げた高校生や大学卒業後の若者が戻らない、戻れない現状をどのように考えているか、若い人たちが定住するための策はどのように考えているか、これについてお聞かせください。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今回いろいろこの後また高橋議員さんの質問にも出るんですが、やっぱり若者は本当にこの町に魅力を持って住みつけるかというようなことになると大変厳しい言及が出ているんです。それにはやっぱり交通の便とか買い物とか病院とかいろいろな課題が出ているんです。私たちは、やっぱりそれをしっかりと受けとめなければならんと思っています。そういう本当に若者の希望、期待にどう応えるかということに対する真剣勝負をかけていかなければならない。そのための町としてのできる限りのことはやっていかなければならない。例えば病院関係、病院関係といってもなかなか今新潟県、全国的にも病院の再編成の問題が大きく課題になっているわけですが、ここに大病院を誘致するというわけにはまいらない。そして、やっぱり交通の便も非常に厳しいというようなご意見もあるわけですので、それをどう解決するかとなっていて、交通機関もやっぱりマイカー時代を迎えて厳しい。その中における撤退なり、路線の変更なり、便数を減らすというような問題も出ているんです。それに対して町はどう対応するかということになってまいりますと、今もデマンド問題も今回またちょっといろいろご意見を聞きながらより利便性を高めたいというようなこともございますし、病院関係も私はちょっとお叱りをいただくのかわからんども、今、公の席においていろいろな問題がなんですが、私はそれに対してはこれは現実的に医師の確保の問題とかいろいろな関係からしますと、この再編はやむを得ないというふうに私は受けとめる。その中における医療の充実を考えるとどうするかということは、やっぱり出雲崎町の住民の皆さんが医療に対してどういうお考えを持っているか。そういう医療の関係についてどういう点で不便か。おかげさんで出雲崎も今長岡あるいは柏崎、あるいはあっちの下越のほうにも案外近いということもございまして、基幹病院としては非常に恵まれている。そういう中における病院関係、大きな病院なんかとても誘致をするわけにまいりませんので、今の現状の中で開業医と基幹病院との結びつきをどうするのかということをしかりとお互いに検討しながら、そしてそこにおける地元の開業医では間に合わないときにどうするか、そのとき町はどういう対応するかということを考えていかなきゃならない。そういうきめ細やかな皆さんのご意見を受けとめながらも、それに近づける努力をする。そのことが若い人たちに対しても改めてこの町に対する期待感なり住んでみようかということになってくると思います。だから、私は今回の非常にまち・ひと・しごと、住民の意見を本当に1つずつ聞いておるんですが、お叱りをいただいています。それは真摯に受けとめながら、それをどう解決していくかという努力を姿勢を皆さんに示すということが大事だと思うんです。単なるこれはあなた方のご意見、そうじゃないんです。一つ一つに答えるという努力が必要だ。その努力をするということが我々の使命です。そういう点で全力を挙げて、さらにさらに町民の懐に

飛び込みながら、しっかりとご意見を承って、それに対する誠実に答えを出す、行動するということが大事です。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） 町長再度お聞かせ願いたいんです。若い人たちがこうやって条件がいい、物すごくいいんですよ、うちのね。本当にいいと思います。国内外でもトップだと思うんです。例えばうち東京のほうから来た連中にしたって子育てからいって高校生まで医療費が無料、ええ、本当なんですとかという人が都会になればなるほど多いです。この町の中にいる人でも保育園行っている中で、保育園で聞いたわけじゃないですけど、そこにいる子供を帰されるとおしめ使ったのをよその例えば名古屋だとか岐阜のほうの市町村、あれみんな昔と一緒に帰る。おしめの綿おむつの関係があったと思ったけど、まだお持ち帰りなんです。へ理屈つけた中では健康のために持って帰るんだというようなところもあるんですけども、うちの町はこんなもの昔からないですよと、親がそういうもの、子供たちがうちの中で親子でいろいろ会話するためのそういう時間もそういうのがなければとれるから、そんなのなんか何もないと。もういいことが普通になってわからない人もいっぱいいるんです。それだけうちの町はいい町なんです。だから、いい町で条件、これ見たら、支援事業見たら山ほどある。住宅にしても土地は安いし。

それで、再度お聞きしたいのが、いろいろ町長が1つずつ意見を聞いていること言いましたけども、若い人は何で戻らない、何でここに定住していつてくれない、よそからでもうちの町外者でもいい、若い人来てくれない、これって何なのか。これについてももう少し具体的にお聞かせいただきたいし、わかりやすい回答、要するに施策を1例でもいいですから、お聞かせ願いたいと思うんです。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほど来からご意見を承っているわけですが、私は基本的にはこれからは定住なり若者からこの町に住んでもらう、あるいは子供さんを産んでもらうということは、まず私はこれからいろいろなことございます。観光もございますし、産業、農業、いろんな振興もいろいろございますが、私はこれから出雲崎町の人口を増やす最大の基本はやっぱり婚活、結婚、妊娠、子育て、教育、これを徹底していただくんです。今加藤議員さんがおっしゃるように、出雲崎が新しく始める事業、これは全国的にもまれなんです。そうすることによって出雲崎に住んでみよるかという人が出てくる可能性が十分私はあると思う。私は、ちょっとこういう言い方は失礼ですが、先般日報でいろいろな記事が出ました。その中で大変厳しいご意見もありますが、若い20代の子育ての人たちが本当に出雲崎は子育て、そういう面というのは全く十分だと、文句言う筋合いはないというあの記事を見まして、私はそれ1人のご意見かわかりませんが、基本的にはそれが勝負になるんじゃないかと私思うんです。そこにおける基本的に若い人たちから住んでもらって子供さんを産んでもらう。そうすることによって次につなげる手段を考えて、その人たちのために何をす

べきかというのは要望を聞きながらやっていきたい。究極はこう思うんです。この厳しい時代の中において本当にこの町に育って、育てられ、教育を受けて、そこにおける頑張ってもらったなど、俺も厳しい中でよく頑張ってもらったなど。よし、そうなれば町のためにもちょっと頑張ってみようかという愛郷の精神を私は生み出してもらいたいという願いも込めております。単なる物理的な問題じゃないです。精神的な面においても町は頑張ってもらった、もう一つ何とか応えなきゃならんかというものにつなげて、当面はよそへ出てまたふるさとへ出雲崎へ帰ろうかという気持ちを私やっぱり造成するような政策をこれから進めていかなきゃならんじゃないかと。それは企業の問題でございます。いろいろございます。1発で何ができるのではなく、基本的なことを私は申し上げておきたい。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） 諸橋議員が言われましたように、私たちもこの間講演というか、聞き行ってきましたけども、まだ町長が言われる若い人が戻られる、戻るというような数字が出てきていないです。みんな生まれた。みんな出ている。みんなマイナス。戻るパターンは出ていない。これに対してやっぱり具体的な具体策をある程度見つけ出していかなければいけないと思うんです。勉強して出した。支援もして出した。にもかかわらず、諸橋議員が言うように、じゃだったらこっちに来て自分で企業を興すような、そのためにこういうものがあるんですよ、こういうことを町としたら推奨しますよと。やっぱり何かの畑は出したけど、植え方がわからん、植えるもんがわからんじゃだめなんだと、戻れやしねえと、そういうことまで理解していかなければいけないかなと思うんです。畑はある。じゃ、何を植えるんだ。知識もある、学校出た人は。そういう人たちが、よし、知識もいろんな大学出て覚えてきた。よし、ここでまた町に戻って何とかしようと、そういう環境づくりをもっとしなればいけないかなと思うんです。抽象論はいいんですけど、やっぱりそういう具体論はある程度出していかなければ戻れる気にはならないと思うんです。それが必要だと思うんですが、その辺はどうですか、お考えは。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 残念ながら私の子供も2人ばか東京のほうに行っているんですが、やっぱりおっしゃるように私はどうしても地元に戻ると。この後どうなるかわかりませんが、やっぱり厳しい状況。そして、私はやっぱり先ほど申し上げましたように、今のこの社会情勢の中においてやっぱり経済的にもいろいろな意味でも必ずあの一極集中の都会の中で本当に満足できるような生活ができる、私は子供の状況見て満足しているのか。ただ、ああいう都会だから、住んでいるんだからしようがないというような気持ちです。私たちにすれば、私は今の自分の生活環境、出雲崎町の環境、何であんなとこへ住んでいるんだろうと、私そう思います。私は、出雲崎ほどいいところないと思う。ただし、そのものをやっぱり皆さんからどう理解してもらって町に帰ってもらって住んでもらおうということなんです。そこにはやっぱり町民の皆さんからも先ほど申し上げましたが、自信持

って。かつては教育をさせて、おまえ出世せえと、もううちなんかなくていいよと、外へ出なさいと、外行って出世しなさい、そういう時代だった。そこが核家族になり、今非常に厳しい状況を生んでいるんです。だから、私たち一人一人個人が考えたときに、そういうことの中における今子育てにいろいろ目を通してながら子供たちにしっかりとやっぱり住んだところ、そこに愛着を感じ取るというようなものの教育を、この後また質問あるようでございますが、そういう点を徹底していかんきゃならんというふうに思っています。抽象的ではありますが、抽象的な基本的な論理としてはそう。そこにおける一つ一つの具体策を例えば空き家対策、あるいはいろいろな面で新生活支援だと、いろいろな面を町はやっているわけです。ちょっとそういう政策という面じゃ町はよそには負けたいと思っているんです。そういう意味で加藤議員さんのおっしゃることは十分理解をし、いかにそれを解決するかということ、なかなか一朝一夕にはできないものではありますが、だから諦めずに一つ一つやっていかんきゃだめです。一つ一つ。もう何もかも大丈夫にするかって、全てやると、そういう時代じゃないです。やっぱり地道に一つ一つやるのが、例えば先ほどから申し上げた子供未満児保育、これ私は相当な反響の中で、加藤議員さんのおっしゃるように出雲崎町もこれから外に出て徹底的に出雲崎町を売り込む、そういう対象をつくらんきゃだめです。出雲崎きたときにはこうですよ、空き家対策もそうですよ、新生活生活もこうですよ、あらゆる面で対応する。そこにおける病院とか、そういう関係の中に不便を感じてもアクセスなりそういう面をしっかりとこれからやっていく。そうすればあなた方ああいうところよりも出雲崎来たほうがいいじゃねえですかという売り込みの題材を、私はこれから外へ出て徹底的に売り込むということ大事だと思うんです。ただ、出雲崎で満足しちゃだめです。それを外にPRをして、全国的にまれであるこういうことやっていますよ、出雲崎は住みやすいですよとするという外交、そういう行動がこれから私は絶対必要だと思います。加藤議員さんのおっしゃること十分わかるんですが、それ1つやったことに全て行く、そういう時代じゃないんです。積み重ねをしながら、そして地道なりとも出雲崎そのものの全体像、もう外に売り込んで、私はこれが一番必要だと思うんです。今の子育ての問題もこれからやりますが、そういうものを徹底的に外にPRしながらやっていくということが必要になる。そういう意味でまた議員さん各位の貴重なご意見をしっかりと受けとめさせてもらいたいと思います。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） 了解しました。先ほど言った我々が議員研修で行った宇田津町、あそこのいいところはまず四国の大橋ができたということで、あちらのほうに仕事に勤めるという形が大きい1つがあるんですが、8平方キロの中でそこでうたったのは子育てがすごく充実しているということで周りの町村の若い人がぐわっと人が来た。そこに住んで、そこプラス四国のあの大橋を渡って、要するに岡山のコンビナートの近くのほうに行くという、タイミングもよかったんですが、次にどんどん私質問していきますが、うちもいいタイミングあるんですが、その辺をどんどん利用するチ

チャンス タイミング逃がさないような形で進めていってもらいたいし、うちの町のカラー、子育てからもう支援は山ほどあるんだということ、これはどうやってPRできるかがポイントだと思っていますし、じゃ次の質問に入りたいと思います。

長岡北スマートインターチェンジとほぼ直結した場所に広さ37ヘクタールの新産業団地、長岡北スマート流通産業団地ができ、27ヘクタールを33区画の分譲地を1期7社、2期9.6ヘクタールに8社、計15社の県内外からの企業進出も決まったと発表されました。残りの3期分譲は来年度に受け付けを開始するとのことで30社近くの企業進出が予想され、進出企業の事業の拡大により、従業員、すみません、今の話戻します。中永トンネルのほうの話にさせていただきます。当町は、広さ44平方キロの小さな町に国道116号線、402号線、352号線の3本の国道が通っており、特に352号線は近接の長岡市に通ずる通勤、通学や生活に必要な重要な道路であり、旧道は冬場雪に閉ざされた道路が凍り、雪崩がいつ起きるかわからない峠道で通行が困難であったが、平成13年に現在の中永トンネル1,800mが開通し、冬場も安心して通行可能になった。ここ最近では長岡北スマートインターチェンジも開通し、各方面へのアクセス性も向上し、周りに北スマート流通産業団地もでき、産業の基盤の強化、観光交流の促進、雇用の拡大も期待される中、通勤、通学、通院など生活に欠かせない中永トンネルから出た長岡方面の道路は、曲がりくねったつづら道で、道幅も狭く、ガードレールもなく、道幅が狭いところに国会議員、県会議員、県知事や各党のポスターがべたべた張られたポスター街道と化しており、この狭い道路を私たちが解消しますというスローガンもない。あれば大歓迎なんですけど、現状は大変危険な道路であり、多くの町民が利用する重要な道路であり、利用者が安全に安心して通れる道路幅の拡大や法線の見直しなど、道路環境の改良見直しについての考えはないかお聞きします。重複していますが、よろしくお願ひします。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） この件につきましては、諸橋議員さんにお答えしたとおりでございますし、また今加藤議員さんのご説明のとおりでございますし、私たちもそれをそのままいいとは絶対考えておりませんし、やはり先ほど来からこれからの出雲崎町のさらなる躍進を考えたときにおいては、これは必要欠くべからざる改良路線というふうに考えています。それだけに先ほどから申し上げておりますように、今若干出雲崎も大きな事業入っておりますので、そのネクストにつきましては今からやっぱりこういう問題を抱えているんだということで長岡市内あるいは関係する皆さんと歩調を合わせながら、またそれぞれ先生方からもその点ご理解をいただきながら、やっぱり前向きにその路線の改良等についてのご協力をいただかなきゃなというふうには思っていますので、この問題につきましては先ほど諸橋議員さんとのいろいろな意見交換の中でお伝えしたとおりでございますし、また加藤議員さんのご質問に対してもしっかりと受けとめていかなきゃなというふうに思っていますので、よろしくお願ひいたします。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） 将来に向けた話、町の展望坂の道路も拡幅されたら次のステップに進んでいこうということで、その辺は十分理解しましたけども、私もあそこ通るたびにあのカーブがあると、長岡方面向かうと反対側から来る車でカーブに来ると寄ってきて、私はミラーも雪が降ったときのポールがあるんで、あそこにぶついたりしてミラーをはじき飛ばされたこともありますし、またはじき飛ばされたミラーのカバーをとりに行くとやはり私と同じように私以外のミラーもやっぱり落ちています。それぐらい道幅も狭いわけです。その狭い幅の中に、またそれプラスガードレールもない。あそこ田んぼ落ちそうなどこいっぱいありますよね。わかりませんか、出てからすぐ。ああいうところもガードレールもなしに何もないうちで、これでいいのかなというふうに思うんです。その中で将来的にはいろんなでかい面で法線もどういふふうになるかわかりませんが、違う形で町長進められると考えておりますけども、じゃ暫定的にはどうしてくれるんだということがちょっとお聞きしたいんです。何らかの暫定的に広げられる部分だけは広げていきたいし、家がある、街並があってそこはちょっとひっかかるなど、それは今のところいろいろ時間とお金もかかるんであればできないかもしれないけど、できるところはやると。特にそしたら冬場なんですけど、やはり町の人に通うに当たっては消雪パイプをそこにも入れてもらうとか、暫定的に。それぐらいの何かはして、新しいのができるまで待ってくれじゃなくて、今住んでいる人が楽に行けるようにするために、今よりも少しよくするために何かをする必要があると考えるんです。それで、町長も今8期やっている中で県のほうも国のほうといろんな太いパイプを持っているし、いろんな信頼関係を持っている中ですから、これを町長あなた自身が利用して我々に安心して通れる道路にしてくれる考えがないのかどうか、これについてお聞かせください。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 同感です。私も、いやいや、そうですよ。あなたおっしゃるとおりです。バイパスを今やってくれというのと、おっしゃるとおりでバイパスといたってこれ簡単に、それは将来的にはお願いしたいと。あなたおっしゃるとおりです。私もあなたどこでどうされたかわかりませんが、あの峠を下がって左手に何か小さな工場みたいなものがあります。あのカーブ、あそこで私も2回も3回も来た車と対向したときにバックミラーをすったんです。何が出てきたと思った。2回も3回もありました。いや、わかりました。そうです。そういう点については、速やかな改良を求めていきたい。部分的なね。そういう危険箇所については徹底的にやってもらいたい。これはわかりました。そうですよね。今あなたから言われて私もそういう経験をしている。そういうところをまずやってもらわなきゃ困る。そういう点は徹底的にやりましょう。それやります。もう即また県なりに申し上げます。こういうことありますよと、あなた方それで事故やったら大変だ、すぐ改良なさいと。局部的な改良ですが、それやりましょう。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） ありがとうございます。町長の経験を私が言う前に町長のほうから、あなたた

ちが言う前に私がちゃんと言ってあると言ってもらいたいのが私なんです。その中であとプラスしたいのは、あそこも暗くて冬場になって日没早いと歩いている人がいるとやっぱりひやっとするんです。ですから、外灯も近所の人が明る過ぎて迷惑になる言うかもしれないけど、つけれる分はつけたり、歩道が少しでもできる部分はつけてもらって、運転者も歩行者もちょっと事故に遭わない形ができるのであれば、その面も暫定的にでもいいですから、将来はどおんとした道にしてください。やっていただければというふうに考えているんですが、その辺もよろしくお願ひしたいと思ひます。町長の考えも十分理解しましたので、ありがとうございます。

あと次に、全部つながっているんですけども、北スマートインターの流通産業団地ということなんですけども、また重複して読ませてもらいますけども、北スマートインターチェンジとほぼ直結の場所に広さ37ヘクタールの新しい新産業団地、長岡北スマート流通産業団地ができ、27ヘクタール、33区画の分譲地を1期7社、2期8社の計15社の進出も決まったと発表されました。残りの3期分は、来年度に受け付けを開始するとのことで、30社近くの企業進出が予想され、進出企業の事業の拡大により従業員の異動や新規雇用の拡大に大きな期待が持て、当町からほんのすぐ近くで、渋滞する橋を渡らなくて済み、通勤も容易で最高のポジションである我が町の経済の活性化や定住人口につなげる大チャンスであり、進出企業、関連企業に雪も少なく、交通アクセスのよさや周辺と比較した時価の安さ、住宅支援環境の整備、県内トップクラスの子供の医療費助成、保育体制の拡充してある住みやすく子育てに適した環境など、いろいろな支援、特典など、町のいいところを町長を先頭に組織のトップが自ら宣伝マンとなって売り込むトップセールスで町をPRし、人口の流入、増加、若い子育て世代の定住、さらに出生率のアップで若者の人口構成割合を高め、町の人口増加と活性化を図る考えはないかお聞かせください。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 常に皆さんから出雲崎は働く場所がないというようなご指摘をいただいた中における申し上げておりますように、今加藤議員さんがおっしゃるにはスマートインター約26.6ヘクタールですか、大分企業進出も旺盛のようでございますし、また長岡市もさらにあの周辺を工業団地として開発をしたいという意向も示されているわけでございますので、出雲崎からわずか15分から20分でそういう団地に行かれるわけでございますので、私が申し上げているように出雲崎の庭先に木ができたということをおし上げておるんですが、単にそれが言葉で終わらないように今の若い人たちから、確かにさっき申し上げた有効求人倍率売り手市場ですから、なかなか厳しい面がございますが、やっぱり一体的に今の若い人なりそういう人たちに、そういう今加藤議員さんのご指摘のように、また私が申し上げているように、そういう出雲崎は小さな町は町なりきに予算なり働く場所なり、あるいは子育てなり観光なり、そういう面を徹底的にやっぱり単にホームページでどうするじゃなくて、おっしゃるようにもうやっぱりトップセールスというのは私はこれから大事だと思うんです。私もひとつ行動していきたいというふうに考えています。そうすることによって相当

私は効果が出てくると思います。そういう意味で私はやっぱり厳しい今情勢の中でございますが、外的要因もそういうふうに非常に整ってまいりましたし、さらに出雲崎もそれに応えながら本当に住みやすいまちづくりどうするかということに対し、子育てからいろんな意味でお年寄りの皆さんにも徹底的にやっているわけです。そういう意味の出雲崎のよさというのを売り込みながらおいでいただくというように進めてやってみます。ちょっと私もこの問題を出しましたら、課長さんのほうからも町長そうなるのであれば、団地がねえなるし、家が少なくなるんじゃないかというような期待感を込めた言葉も出ておるわけですが、みんなやっぱりそういうことを期待しているんです。頑張っていかなきゃならんと私は思っています。そういう意味でまた議員さんの皆さんの率直ないろんな人たちのご指導、ご助言をいただきながら、我々も挙げて頑張っていきたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） 町長に前回あそこの駅前集合住宅で子育てに優しい集合団地ができるときに、ここに働くところがなければちょっと18歳過ぎたらみんな出ちゃうんじゃないですか、働く場所はどうですかという中で、町長は近隣の市に働きに行けばいいというような答弁を私はいただいたと思っております。それで今この質問したわけですが、やはりいい側の団地は働く場所ができる、この中でいいチャンスだと。それから、先ほど言ったように信濃川も渡らなくてもいい、渋滞しなくてもいい中のチャンスの中で、ぜひ我が町に来てくれと、要するにもういろんな条件がすごくいいということは、これチャンスだと思うんです。ただ誰かがホームページ見て、ああ、あそこはいい町だと、これじゃやっぱり先ほど言ったようにだめだと思います。そのために先ほどからずっと今関連してつながって質問していったわけなんですけども、道路もそう。そうやってきちんとしたものができてきて、あそこに行けば宝がある、簡単に行けるというようなやっぱり町にするチャンスなんです。これを逃したら私はまた次もうないと思います、このチャンス。ここに多分約30社ぐらい来る中には県内外あるけども、家族でもう来なければいけないというような人もいると思うんです。それから、新規雇用も2期目のときは新聞では従業員が400人いる、それプラス150人以上の雇用をしなければいけないというような話も新聞に出ていたわけです。あれがトータルで来ればそんなもんじゃないわけです。若い人、あなたらここ来て、そしたらここで住んで、結婚もしてというような形で、我が町はいいとこなんだと本当にPRしなければいい結果は出てきません。きらりと光るあれを見に行こうやと、これじゃだめだよ。先ほど来町長も今トップセールスやる言っていますけども、本当にあそこに人が来る言ったらハイエナのようにうちの町をPRして進んでいかなければいけないかと。あの30社来るレベルという中でも、それプラス外注さんがいるから協力工場もいっぱいあるわけです。そういうところが来るのはチャンスなんです。絶対逃したらいけないと思うんですが、この辺再度PRについての意気込みをお聞かせください。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 申し上げていますように新しい年度において新しいまた制度もスタートするわけでございますので、そういう点をしっかりと大概的にご理解いただくという、これは大事だと思うんです。私も先ほど申し上げているようにトップセールスといいたまいますか、私もやっぱり出向いていろいろな会の中でしっかりと出雲崎のあのホームページだってやっぱり出雲崎のよさというのは子育てからゆりかごから終の棲家まできめ細かくやっているんだということを具体的にわかりやすくもう徹底的にPRするということが必要だと。ひとつ議員の皆さんからもご協力いただいて、徹底的にやりましょう。外交ね。もうそこにおいてまた出雲崎を売り込んで、大勢の皆さんがおいでいただくような努力を私だけじゃだめなんです。皆さんとともにやるということをお願いいたします。しっかりとご理解いただいて、これから積極的に進めるべく頑張りたいと思います。

○議長（仙海直樹） 6番、加藤議員。

○6番（加藤修三） まず、町長が徹底的に旗振りすると。ほかの人がいかに町長の旗振りで踊るかということがポイントだと思うんです。

あとそれと、先ほどに戻りますけども、大学出た彼らにもアピールして、ここにこういう団地ができて、こういう多分応募があるよということもやっぱりアピールして、戻ってきてもらえるチャンスをつくるということが十分必要だと思うんです。今の一連の話はその辺を全部スクロールした話ですので、最終的にはやっぱりここに多くの人が住んで、町民税、住民税払って、うちのもともと財政が地元の私たちのここでとれるのは5億、6億しかないお金をもっともっとお金も入って、もっとより豊かな町にしていかなければいけないということですので、今のトータル的な形を含めて町長が旗振りして、私たちも踊るといって進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

以上です。よろしくお願ひします。

○議長（仙海直樹） この際、しばらく休憩をいたします。議場の時計で11時10分から再開をいたしますので、よろしくお願ひいたします。

（午前10時55分）

---

○議長（仙海直樹） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時10分）

---

◇ 高橋速円 議員

○議長（仙海直樹） 日程第1、一般質問を続けます。

次に、4番、高橋速円議員。

○4番（高橋速円） 質問させていただきます。

7月に実施された町の総合戦略策定に関するアンケートにかかわることで質問させていただきます

す。傍聴の皆様方は、このアンケートということは多分ご存じないんだと思います。実は8月の全員協議会でこれが私ども議員に報告されまして、その後広報か何かに出るのかなと思っておりましたが、ないようなので、ただその内容が非常にいわゆるこれからの町のいわゆる総合戦略ですから、かかわる内容でもありますし、またもう一つ私これは一般質問でなくて全協でやるべきかなということもあったんですが、簡単に言えば町がこの後どうなるのかというか、どうしたいのかというようなことで町長のいわゆる生の声をやっぱり引き出すべきではないか。それもやっぱり傍聴の皆さんがおられるところでないとまずいのかなという判断でこの場を選んだということなんです。

ちょっと時間いただいて傍聴の皆さんにご紹介しますと、7月に町民の皆さん全部で約1,300人、1,253人ですね、正確には。その皆さんに調査対象で調査票を送って、そのアンケート調査をしたと。回答が16歳から18歳がそのうちの42人で、19歳から50歳が315人で、計1,253のうち357人、解答率が28.5%という調査結果を頂戴しております。

早速もう質問入ります。町長、このアンケート全体、4点質問すると書いてありますが、通告で。全体をどういうふうに受けとめておられますか。まず、率直にお聞かせいただきたい。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 私も、このアンケート回答については全て目を通しました。町民各位からそれぞれの立場で町を思い、町の将来を憂いながら率直なご意見を承ったと受けとめております。中には私に対する厳しいご意見もありますし、私はやっぱり町民のそういう皆さんの声は本当に謙虚に真摯に受けとめなきゃならんと私は思っています。いわゆる厳しい批判なりそういうものについては、私自身が身を律しながら、そして町民の皆さんの本当に判断をいただくということが私はやっぱり大事だと思います。私やっぱり今回の町民の皆さんのアンケートを見まして、本当に私は私なりにそれぞれ皆さんの叱正を受けながらやっているつもりですが、やっぱり厳しいご意見、これ私は本当に真剣に受けとめながら、本当にしっかりと身を律してやっていかなきゃならんと、私はそう思います。さらにいろいろな観点についての質問ございますが、先ほど来の一般質問の中にも出ております。そういう問題に対する町民の真摯な本当に真剣な声が出ておるなというふうに受けとめています。そういう問題を網羅しまして、やっぱり一つ一つ着実に全てのご意見あるんですが、それを全て満足というわけには今のところいかないが、しかし可能な限り近づける努力というのは私たちは要するにやっていかなきゃなと思います。どんな小さな声でもしっかりと受けとめるということが大事なんです。これは単なる評論なんて、そんなことは言わない。どんな1人のご意見でも受けとめなければならない。それを受けとめながら、それに対するトップとして、例えば私の場合はどうあるべきか、これは本当にやっぱり常に反省をして常に身を律しながらやるということが大事。議員さんにも意見が出ています。議員さんからもそれを受けとめてもらう。また、行政全般についていろいろなご質問をいただいています。これは、私は全部目を通してらるんです。そうかな、やっぱり日ごろきょう一般質問出たいろいろな意見、そういうものが集約されながら出ておる

なということを受けとめております。大変厳しい状況の中でございますが、町民それぞれが、解答率はちょっと少なかったんですが、これは行政区長を通してのやっぱり今までとは違いまして、やっぱり任意にいただいたということで若干解答率が落ちたと思いますが、いかに解答率が落ちたとしても一人一人の声というのは真剣に受けとめております。そういう意味でもうどんな小さな意見でもこれを受けとめながらどう、一つの対応すべきかということは私たちも考えておりますし、また皆さんもこれを受けとめてまち・ひと・しごと創生総合戦略の中にそれをいかに生かすかということをやったり私は真剣勝負をかけて、今回まち・ひと・しごと創生総合戦略の中にもそういうご意見を受けとめて、少しでも近づく努力しているなど。間もなくまた皆さん方にもお話を申し上げるわけでございますが、このアンケートが改めて本当に虚心坦懐に謙虚に受けとめて行政を進めていくべきだというふうに考えております。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） この近年町長は、ずっともつ前は町政報告なり、あるいは町民の意見を聞く会みたいなものがありましたよね。最近はやっておられないんで、だからそうすると一議員としては生の声を町長のところに、あるいは町に出すという場が、このアンケートはだから確かに解答率は低いんですが、低いとはいうものの、その声は大変重いんじゃないかなというふうに私は思うんです。

厳しいのはわかるんですが、特に2番目にもう質問入るんですが、18歳以下の若い皆さんの回答が解答率は50%なんです、50%あるんですが、特に私が大事にというか、注目しているのは、全部の質問以外のいわゆる定住対策、人口減少対策に対するご意見とか、あるいは町の施策全般に対する意見等のいわゆる自由筆記というんですか、自由に書いてくださいというところのこの意見というのは、非常にこれはそれなりの思いがなければ書いていただけないんです。ですから、その中で簡単に言って好意的な内容かどうかというふうに見ますと、やっぱり辛口な内容がつつられているというところで、特に若い人たちのここに書いてある提案等のいわゆる感想というか、コメントはやっぱり重いもんがあるなというふうに思うんです。これからの町をしようんですから。というか、大きく言えばグローバルな言い方すれば日本をしようわけですから、その辺は非常に私は大事だと思っているんですが、町長はその辺の認識はどういうふうに持っていますか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今議員さんおっしゃるように私もかつては町民との対話集会等も行ったわけでございますが、なぜ中断をしているかといいますと、議会の皆さんもそうなんですが、やっぱり真剣に町民と向き合うということですが、なかなか向き合ったときの対話というのが表面的なことは出るんですが、私はこのアンケートを見て、これがもし私との対話だったらこういう厳しい意見は出なかったろう。そういう中における大胆率直に意見が出たというのは、これはやっぱりアンケートだから、こういうのが出た。それだけに厳しく受けとめる。しかし、私はやっぱり今後もし仮に

皆さんのご指名をいただければ私は今後、先ほどトップセールスと申しましたが、これから例えば妊婦の方々、子育ての皆さん、そういう皆さんとの対話、若い人との対話、そういうものを私は設けてみたいと思います。今町は新しい人たちが住む。そういう中におけるその世代別の本当に若い人たちが非常に厳しい意見、それに対してやっぱりトップとしてそれに対する若い人たちにもっと元気と勇気を持ってもらえるような対応をしていかなきゃならん。私は、今後場合によってはこういう妊婦初め子育ての若い世代の皆さん、そして若い人たち、これからどうしようという人たち、そういう皆さん、あるいは中高年の方との対話をしっかりとやりながら、しっかりと私は私なりの指針をしっかりと述べてご批評いただく。それを受けとめながら次のネクストにつなげるという姿勢を町民に示すべきだと私は思っている。私は、今回のアンケートは厳しい意見あります。私はしっかりと、これは私と相対したらこういう意見は出ない。それだけに私は真実として捉えるという反面もあります。ただし、これからは私はやっぱり先ほどのトップセールスもあれですが、そういう機会持ちたいなと思っています。そういう意味で今後また議会の皆さんとともどもにひとつ、本当にやっぱりこれからのいろいろな事を進めるにも町民の真の声をしっかりと受けとめることが大事だと思うんです、これからの。これが喜びも苦しみもともに分かち合いながら、ともに努力、汗をかくというのが大事だと思うんです。そういう意味で私はこのアンケートは非常に貴重なものだったと思います。厳しい意見を、私は真剣に受けとめなきゃなというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） 今町長は、厳しい意見というふうに盛んにおっしゃっておりますが、質問の3つ目に入ります。町長にとっても私ども議会議員にとっても大変厳しい感想なりコメントが寄せられております。これは、もう町長もおっしゃっています。個別の意見、ここで紹介は私はしませんけど、ただそういうことで今町長は、特に若い世代の皆さん方とのそういう場を設けるといふふうにおっしゃっております。これは、ぜひやってください。と同時に今まで同僚議員から質問が出ている内容でも私はちょっと違う角度から今お尋ねしているつもりなんですけど、ポイントは出雲崎の町の何か足らんと。何か足らんけど、その結論がわからんです。いろんな施策は十分あるんです。やっているんだけど、簡単に言うといわゆる結果がなかなかうまく、出ている部分もあるけど、出ていない部分もあると。これをどうリンクさせてどうやるかという、ポイントはそこだと思うんです。それを町長はトップセールスという言い方をされていますが、その厳しい意見をただその場を設ける、それはいいんだ。いいけれども、それをその辺を厳しいということだけで終わっていいのか、町長、それ厳しいというのはどういうふうな形で総合戦略につなげていきますか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） まず、第1手は厳しいということは、町長としての立場に対する町民の厳しい批判を受けておるということをまずは私も押さえている。議員さんもそうです。厳しい意見が出ている。これは、やっぱり真剣に受けとめなければならんということをお願いした。そこによるアン

ケートにおける働く場所、病院の問題、交通の問題、あるいは産業振興の問題、いろいろある。これは、やっぱり皆さんのご意見はご意見としてそのものを、そのためにアンケートをとったんです。そのアンケートに基づいて、次のネクストのまち・ひと・しごと創生戦略の第2弾につなげたいということでアンケートをとったんです。だから、厳しいというのは私は私個人、あるいは議員さんが受けとめておられると思いますが、戦略、いわゆる政策的な問題については、これは一つ一つあるわけですから、そのものに対する我々はできる限り、可能な限りそれに近づける総合戦略というのをこれから立ち上げるということを思っているんです。厳しいというのは、私はまず町長個人に対する批判なり議員に対する批判、このものを私は厳しく受けとめるということで、政策的なことについてはこれは前向きに受けとめる。前向きに受けとめながら、その問題の町民各位の願いをどういう形で政策的にあらわすかということがこれからの問題。できる限り、可能な限り頑張っていきたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） 19歳から50歳の皆さん方への質問、あるいはまた若い人もそうなんですが、もうポイントはアンケートで集約されているんです。これは以前からそうなんです。いろいろなデータを私も読み込みましたが、とにかく買い物が不便で、交通の便がよくなくて、医療施設が不十分で、なおかつ高齢になっても暮らしやすい環境が欲しいと。これは、もう地理的に出雲崎はそういう地域なんです。だけど、それはみんなわかっているんです。みんなわかっているんです。それで、今のこの総合戦略のいろいろなたたき台というか、今一つのプランが出ていますが、各課がいろいろやっているし、また民間委員さんがいろいろな提案をされている。それも一応読ませていただいておりますが。だから、要はみんなわかっている。わかっている、具体的なその成果がなかなか見つかってこない。みんないろいろな形でやっているんですが、だけど、いろいろ読ませていただいてもこれという解決策というかヒット策がないように私には思えてならないのですが、その辺は町長は厳しいというんだったら何かそこからどこか選択と集中、集中したほうがいいのかなという気もするんですが、その辺はどうですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 今議員さんのおっしゃるように個々具体的なことについては今おっしゃるとおりで、対向しますと、大きく分けるとそういう問題ですが、だから例えば買い物難民、買い物難民というよりも出雲崎は大きなスーパーがないとか、いろいろなことが言われている。だから、買い物が不便だというような、全くおっしゃるとおりなんです。しかし、それに対してどう対応するかということになってまいりますと、私やっぱり、私はそう言うては失礼ですが、かなり申し上げて、極力やっぱり地元を利用させていただかなければ困る。今出雲崎も大変お店も少なくなってきた。そういう中において限りなくできるだけ、それが専門店ができないとまたいろいろありますから、やっぱり私は町民の皆さんが買い物は不便だ、確かにそうです。スーパーは欲しい、それは果たし

てスーパーが、今大きな都市はスーパーやああいうのが撤退しているんです。それに対して答えはなかなか見出せない。そのためにどうするか。そうなればやっぱり地元の今の業者の皆さんから頑張っていて、できるだけ町民からそれを、もし仮にそういう自体がもうお店がという場合、この町は最大限のまた知恵を出さなきゃなと私は思っています。

そして、交通の不便さというのは、それは確かにそうなんです。しかし、現実的にそうおっしゃるが、公共交通機関を皆さんどれだけ利用するかってなるとまず厳しい。私もそうです。自分の車ありますから。そうなると、不便だ、不便だっておっしゃっても果たして交通機関、あるいはJR越後線を利用すると、なかなか利用する方がいない。そうなりますとやっぱりだんだん厳しくなるとまいますから、先ほど申し上げますような路線の廃止とか便数を減らすとか、厳しくなってくる。それに対して町は、やっぱり町民の皆さんはそういう方があるんですから、デマンドを使用して、今回また皆さんにも町民各位の使用しやすいような体制でしっかりと意見を受けとめ、今回相当改善しています。それから、そしてタクシー券もそうです。できる限り、これ出雲崎がどんなに小売商の皆さんに利便を図ってもらいたいと思っても、今の運輸関係のあれでは、今のタクシー券は本当に圏外まで出すというのはなかなか難しい。越後交通とおおむね話をしました。今回は、デマンドもこの書類ようやく1つ解決が付きまして、ネクスト、次に進みました。

だから、私はやっぱり今回のアンケート決定的なものに対する答えが出ない。それは、なかなか難しい。しかし、限りなくそれに近づける、その不便さをいかに解消するか、そのものを一つ一つ積み重ねていくのが政策です。そのものに実際結論が、いや、わかりました、スーパーを誘致します。そんな簡単な私は答えを出せない。現実から難しい。難しいが困っている方々なんだから、できる限りその人たちの利便を図る、そういう方針です。病院もそうです。大きな病院をここに持ってきなさいって、今病院だって悪戦苦闘している。県だって病院によっては8億、一つの病院は8億も9億も赤字を出しているんです。問題です。そういうことの中における再編が出ている、もうそれは現実的に受けとめなきゃならない。私は、いつも出雲崎は出雲崎なりきにしっかりとすみ分けをして身近なものは開業医、そして開業医で足りないのは長岡なり柏崎に行く。そういうシステムをしっかりと構築をして、皆さんがそういう病院に行きやすいような利便性を図ると。そういう形の中に町民の皆さんのお困りに対する一つ一つに近づける努力というのをしていかなきゃだめだ。

決定打はありません、申しわけないけど。皆さん、スーパー持ってきてくださいって、持ってこられますか。だめでしょう。みんな撤退しているんです、よそは。しかし、そういう中において私は出雲崎にスーパーは持ってこれない。来れないだけにやっぱり買い物難民なりそういうものをつくらぬように極力町の行政として可能な限りは努力したいという方針、政策を出しているのが私はこのアンケートをとりながら考えています。決定打は、これに対する皆さんの決定わかりました、病院持っていくます、そんなことなんか出せるわけない。それに近づける努力、皆さんがお困りの

ようなことに近づける努力をするというのが私はやっぱり今の出雲崎の現状じゃないか。もうしっかりとアンケートを受けとめて、できるだけお答えできるようにやっていただく。これが一つの町の政策です。そう思います。

○議長（仙海直樹） 4番、高橋議員。

○4番（高橋速円） 4番目のポイントにも町長の答弁でも入っているんですが、要は私も私なりにこのアンケートの特にコメントのところを読ませていただきますと、要はこれから町民の皆さんの思いは、一体この先町はどうなるのかなと、厳しい状況はわかっていると。わかっているけども、やっぱりこの先町はどういうふうな方向、具体的に言えば合併か、合併じゃないかとか、そういうこともつづられていました。そういうこの先不安なわけです。本当にここで全部楽々とはっきり言えば生活ができていけるのかどうか、その辺の心配事がここにつづられていると思うんです。だけど、今町長答弁を聞いていますと、町民の意識と町長答弁とのこの温度差、かなり落差があると私には聞こえるんです。ですから、それをさっきの答弁でおっしゃるならば町民との意見交換会なり、それはぜひやっていただきたい。そうでないと、この温度差は絶対縮まりません、本当に。だから、忙しいんです。トップセールスもせにゃならん、町民との対話もせにゃならん、だけどそれはやっぱりやってもらわんとだめだと思います。やっぱりそういう中で何か現状を打破していかないとどうかと思うんです。そのための総合戦略だと私は思うんです。だから、そういうふうな線に即した形で総花的な施策を羅列するという、これ大変失礼です。失礼な言い方もわかりませんが、そうじゃなくてやはりもう絶対この町をこれからこの線とこの線だというふうな形をきっちりうたい上げたほうが町民の皆さんは理解しやすいんじゃないかなと。かなりの温度差があるなというのがこのアンケートから私は読み込めるんですが、最後にその辺の町長、この私の質問にどう思いますか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 私もこうして長くお世話になっておりますが、まずこの町政の運営の基本はやっぱりこの町に住みながら幾らか不便さを感じておりますし、何もしているんですが、やっぱり私は行政と町民との距離感をいかに縮めるかというのが大事だと思うんです。町民の皆さんが、本当に100点満点なんか出ない、泣く子涙底を見ると申しますが、そういう中において他と、他の町村の例えばいろいろな意味の交通の問題とか、あるいは子育ての問題とか、あるいは振興、いろいろな意味のよその町に住んでいる以外の皆さんが一つ一つ個々の生活に直接かかわる問題を出雲崎町と他に住んでいる人たちはどういような受けとめ方をするかといいますと、私は自画自賛するんです。皆さんのご努力、町民の皆さんのご努力があるんですが、出雲崎ほどもう合併したところは悲鳴を上げている。それは、ちょっとそんなこと言うとお叱りを受けるかも。それは、いかに市長、トップがどんなに近づいたって近づけないんです、規模広がっちゃったから。やっぱりそういう意味で出雲崎は小さなまちであるが、行政と住民とのいわゆるふれあいというか機会というもの頻繁にあるわけです。それが私たちも毎日会合に呼ばれています、昨日は吉水ね。あるいは、

農業委員会、あるいは民生委員、そういう皆さんともしょっちゅう交流しているわけで、そのときに率直な意見を私は承る。他の市長の皆さん、そういう会に出られるでしょうか、出ないでしょう。私やっぱりそれを、そういう会の中でしっかりと意見を受けとめて、極力それの実現に向かっていく。これが私は住民は最終的には満足いただけるんじゃないかと。要は行政と住民との距離感が、もうスパンを広げちゃだめです。本当に行政は我々の生活の身近にあるんだというものを町民から理解してもらって、これ基本です。私は、それを進めていきたい。方針で行きます。

○4番（高橋速円） 終わります。

---

◇ 中野勝正 議員

○議長（仙海直樹） 次に、3番、中野勝正議員。

○3番（中野勝正） 私のほうからは、あすにつなぐ快適で安全安心な地域づくりという項目の中で質問させていただきます。

当町は、現在60数の集落が行政と一緒に地域づくりに取り組んでいるわけですが、その中で私から見れば力を入れている地域とそうでない地域があるように私は感じます。力を入れている地域は、町内づくりがうまくいっていると私は思うし、いっていない地域はますます力がなくなっているように感じます。地域に共通するものの一つは、私は循環力を高めるようなシステムづくりがあるべきと考えます。あすにつなぐ地域づくりは、町内づくりという観点から町内活動の充実を一層進めるべきだと思います。その中で基本となる町内づくり活動を町長はどのように認識していますか。聞かせてください。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） ちょっと議員さんのご質問の中で地域バランスを欠いているというようなお話ですが、私は町をやっぱり全体の出雲崎町の六十三、四だか区があるのですが、やはり私としてはあまねくそういう皆さんのいろいろな状況をしっかりと把握をしながら進めておるというところがございますし、差別をつけるということは絶対考えておりませんし、これはご理解いただきたいと思います。

さらにやっぱり集落によって温度差が出ておるわけですが、かつては本当に集落というのは一心同体で、もう本当に喜び、苦しみ、いろいろな行事、いろいろな人との近隣のつき合いがあったのですが、最近そういうものはやっぱり時代の流れとともに希薄になっているのです。そういうところにおけるかつてのような集落自体の絶対的共同精神というものは薄らぎつつあるということ、これは私は認めざるを得ない。これは時代の流れです。しかし、そういう中においてもやっぱり私はこれから町も力を入れていくわけですが、集落の伝統を守るためのいろんな思い、いろんな面についての要請があれば積極的に協力しながら地域の盛り上がりの方に力を注いでいきたいというふうに思っております。えてして、そんなことを言うとまたお叱りを受けるかわかりません

けれども、大きな集落になるほどやっぱりそういう傾向があるんです。私は、かつて皆さんに申し上げた。本当に出雲崎町の町内が、集落が消滅するような集落はそのときに申し上げたように小さな集落は集落ほどやっぱり友愛精神とか団結力とか、共同精神というのが旺盛なんです。だから、小さくともしっかりと集落の問題一切というのは大きくなってくるとやっぱりだんだん、だんだんそういうものが薄れてきている。だから、そういう意味で私たちもできるだけそういう集落においても何とかやっぱりかつてのよき時代を呼び起こして、伝統あるものは伝統あるもの、そしてお互いの友好関係を深めてやってもらいたいな。そのためにまた行政としてのいろいろな要請に対して応えていきたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 町長の答弁の中で昔とは違って現実はなかなか厳しいよという中で今日に至っているわけですが、その中で私はやっぱり同じ気持ちの中であるんですが、やっぱりその地域の中の行政として指導がやっぱり欠けているのかなというふうな認識を私は持っている一人なんですけども、その指導方針みたいな全体の中でもっと町長としてこのようにやっていきたいというふうな気持ちの中の考えはあるでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） いみじくもきのう中野議員さんが吉水集落における町政報告で申し上げたことですが、やっぱりこれから都市と農村混住時代です。そういう皆さんが入りまじって生活をしているわけですが、そういう皆さんが同じ認識に立って地域を守る。例えば日本型直接支払制度、吉水が始まったってあなたがおっしゃった、そのとおりです。そういうものの中からやっぱり私はある程度集落の団結力と、そういうものを呼び覚ましてやっていきたいな。今やっぱり農家と非農家が混住していますから、なかなか難しいんです。一つの仕事をしたいと思ってもなかなか全員の賛同を得られないということがありますが、私はあなたのそういうのにこの直接支払いの、これいい制度だと思うのです。そういうのを導入しながら混然一体となって環境整備をしたり、いろいろするという事は私は大事じゃないかなと思っているんです。そういう意味で限りなく私たちも、そういう制度もいいわけですが、こういう制度は、制度もありますし、いろいろなものを活用しながら進めていくことが私は大事じゃないかなというふうに今思っています。そういう一つ一つの事例を捉えながら、またそれを担当もいますから、進めていただく。一般においては、集落の伝統あるものは守ってもらいたい。それに対する町としてもいろいろな集落に協力しているわけですから、そういうものを盛り上げて、行政も積極的に応援しますので、皆さんからかつてのそういう歴史を守って、伝統を守ってくださいというような働きかけもしているわけですから、そういう両面、制度的にいい面もありますから、そういう点はしっかりと導入する、受けとめてもらう、あるいはまた行政としての町の独自の立場でそういう面を、あらゆる面で議員さんおっしゃるとおりでございますので、努力していかなきゃないなと思っていますので、また具体的にこうすべきじゃな

いかというようなご意見があればしっかりと受けとめさせてもらって進めてまいりたいと思います。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） それでは1番からちょっと入らせていただきたいなというふうに思います。

町内会の活動充実強化についてであります、これについては町長がどのような認識を持っておられるかお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） ご質問にお答えしますが、先ほど来から申し上げていますように地方自治の根幹は住民自治から始まるという基本がございます。そういう意味で先ほど答弁をいたしておりますように町民とともに汗を流し知恵を出し、共同でやっぱり地域づくりをしっかりと進めてまいるといふ基本方針の中でこれからも前向きにひとつ政策的にも進めてまいりたいなというふうには思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 私も町長が言われるのと同感であるわけですが、私は先般柏崎で教育関係のコミュニティへ発表を聞きに行ったときにやっぱり柏崎も広い地域の中でその地域のリーダーがしっかり頑張っておられて、この地域をよくしなきゃだめだという猛烈な意思の中で取り組んでいると。その中で私どもも地元の者に対してやっぱり地元の我々年代がもうちょっと頑張らなきゃだめだかなと。若い者がついてこないすけもうだめだよということではなく、自分たちが頑張ってリーダーを示していかなければならないというのが心に通ったわけでございますが、その中で私はやはりその方も言うておられましたけども、心地よい活動で住みよい町内を目指していきたいと、私もそのとおりだと思うのです。そして、世代間の交流を通してお互いに理解を深め、このお互いの理解というのがなかなか若者と私どもみたいな年代はうまくいっているかなというところちょっと疑問な点が多々あるわけですが、これまた結びつきを強くしまして縮めていかなければならないかなというふうな考え持っています、私としてはきめ細かく声かけなどをして、町内活動の充実を図っていききたいと、またいってほしいという気持ちは持っていますので、また理解していただきたいというふうに思っております。

2番目に入ります。防災、防犯活動の充実についてでございますが、今町も進めておられるわけでございますが、どのように図っておられますか。お聞きします。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 申し上げるまでもなく、ことしも台風15号、19号、21号、東日本を初めもう最大の災害が発生しておるわけでございますし、また今後とも、さらに想定外のいわゆる自然災害が発生する可能性がございますので、もう常に町民各位にも呼びかけながら私たちも自主防災活動に特にまたご努力いただくように意識向上とか、いろいろな意味のまたご指導も申し上げながらそれ

に伴いますところの設備等も改善、充実図りながら進めてまいっておるわけでございます。

私は、これからも町民各位にお伝えしたいことはこういう大きな災害が起こり得る。町としてはもう最大限、ちょっとこの前も中川議員のご質問でアラームの問題もあれだけの金がかかるとよそは入れないのです、お金がかかるから。補助金もない、入れない。でも、私は、金にかかる、助成はない。しかし、町民の命を守る、これ第一義です。お金じゃないです。私は、そういう意味で今回も提案をして、皆さんからご理解をいただいています。そういう意味で町も徹底的に進めてまいります。究極はやっぱり公助、共助、自助、この3つが基本なんです、今これからはやっぱり自助。自らの命は自ら守る。行政も全力を挙げる。それに対応して住民の皆さんからも本当に自分の命なんだから、自分で守らなきゃだめだという基本方針を徹底してもらいたい。それを私は、行政としては最善を尽くすから、その前にやっぱり住民から自助、自分の命は自分で守る、それはしっかりとやってもらいたいなと思っています。行政としても先ほど申し上げますようにやっぱり町民の命、生命、財産を守るのが第一義として全力を挙げて対応していきたいと思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） この防災においては、大門3地区になると思うのですがけれども、大門駅前、川西、川東てまり団地、この5つが私ども区の消防団の活動をされているのですけれども、この夕方7時半か8時ごろになりますと、サイレン鳴らしてきまして、火事気をつけてくださいよというようなあれをやっているんです。だから、消防の皆さん、寒さによく頑張ってくれているなという敬意をあらわしているんで、これもやはりどこの地域の消防団の方もそれに似たようなのをやっておられると思うもので、やはり本当にこの冬の時期、それにやってくれていることを改めて私も感謝するけども、行政としてもまた感謝の意を表していただければありがたいなというふうに感じております。その中でもう一つ自主防災が町が進めていますけども、現時点で集落でやっていない集落なんかあるんでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 100%組織ができているということでございます。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 大変聞いて、いいことだなというふうに思いますので、やはりそれが安心安全につながるわけでございますので、ぜひやっていただきたいと。その中で、ただ自主防災やっていると、100%いつている中でも温度差がありますので、その温度差の中の指導をやっぱりやっていただきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいなというふうに思います。

3番目であります、道路、河川などの生活基盤はどのように今なっているか、また町の考え方がどのようになっているかお聞きします。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 道路関係のご質問でございますが、本当に先ほど申し上げますようにかつての

集落は井掘とかもがりとかいろいろやったんです。今そういうのはなくなっています。しかし、そういう中にもうちの集落もそうですが、みんなが共同で出まして、草刈りなり井掘をしたりする、缶拾いする、これは町もやっているのですが、やっているわけです。そういう意味でやっぱり集落の道路等につきましては、草刈りとか、そういう環境整備にはできるだけ集落の皆さんにご努力をいただけて、河川の関係につきましては、かねがね話題になっておりますが、中小河川のいわゆる2級河川と称するところには草が生えたり、土砂が堆積をしたり、もう大変な問題なのです。それに対して皆さんからも強い要望がございますので、できる限り県にお願いをするなら極端に悪いところはできるだけひとつ対応してもらおうというようなことで対応しておるわけでございますが、先ほど申し上げましたように集落もいろいろ維持費もかかるわけですが、あなたが今申し上げたようにこの直接支払制度、この辺をもう一つ皆さんが考えてもらいたいと思うのです。うちの集落も、そうするとそういうものに対する相当な補助が出ますから。そうすると、集落の維持、あるいはお互いが、そうするとまた協調し、いろいろ和やかな会を持つ、そこによってまた団結力が出てくるのです。だから、私は行政とやるべきことはやるのですが、できるだけそういう制度を活用してもらいたいと思っているんです。そして、環境整備等を進めてもらって、しかし集落で手の届かないところは私たちは極力またやりますから。もう集落でできるところはできるだけ集落で対応してもらおうと。それに対するまたいろいろ制度もございますから、ぜひそういうことを理解いただきながら環境整備をしていきたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 今町長がお話ししました中山間地域直接支払交付金という中で、これも産業観光課になるんでしょうか、説明がありましたように当町14集落の方がそれに頑張っているという中で今後さらにまた産業観光課の指導の中で増えていながら地域の結びつきがよくなっていくんだろうと私は認識しております。その中で私の中の見方でありますけども、私の中の見方は建設課が中心となり計画的に町の生活基盤整備が進められているのは私は承知しています。町民の皆さんの要望があつてのわけですが、私はやはり建設課も産業観光課もパトロールは多分していただけると思うのです。ですから、町の出来事が全部いろんな面で道路だとか、河川だとかいうのを把握されている。ただ、予算面がなかなか厳しい面があるんだろうという中で優先順位をつけながらこれを進めているだろうと思いますけども、やはり区長会みたいなものがあるわけですので、区長会の中でまたお話を聞いていただきながら、やはり困っていても口に出すことを遠慮しているところが私から見た場合あるように受け取れるんです。そうした場合、その辺は行政としては満遍なく平等に扱っているだろうというふうに認識はしていますけども、その辺を再度よくまた見ていただいて、努めていただきたいなというふうに思います。

4番目に入ります。祭り等伝統行事の継続、保存はどのように考えておられるか、町長伺います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 前段の集落におけるそういう改良等について、うちは率直に受けとめていただいているのですが、うちの担当はとても集落からいろいろ要望が出るのです。そうすると、即現場行くんです。それで、現場行ってしっかりと確認をして、やるべきところはすぐやる。ただしちょっと時間を要する、制度的に難しいところ、これはよくやっています。だから、町民から喜んでもらっています。これは、大事なことだと思うんです。ただし大きな改良、第2次改築、今船橋田中線も進めておりますし、今度は、神条吉川線をやったり、いろいろなところをまた第2次改築を始めます。そういう意味で大きなところは大きなことをしっかりとやり、そして小さなことについてはきめ細やかにもう対応していますから、それは住民からも私は喜んでいただいていることで、今この姿勢はしっかりとやっていきたいというふうに思っております。

さらにこの集落の祭りもぜひ守ってやってもらいたいと思うんです。ちょっと最近、先ほど申し上げました若い方々のご意見は、祭り行事、普通春、秋やるんですが、ほんの行事は春で1回でいいとか、秋でいい、そういう人が出てきておるんです。私は、そういう面についてはできるだけやっぱりそういう伝統は守ってもらいたいなと思っているんですが、世代交代で若い人たちが集落のやっぱり主力をなしていますから、そうやってきますと、まああれだなというようなことでおやめになる方がいるんですが。そういうことのないように私はできるだけやっぱりこの伝統は補助していただき、あれしてもらいたいというふうに思っているんです。それには集落の体制です。そう言っただけ失礼ですが、私の集落は、かつては13軒しかなかったんですが、今度8軒増えたんです。どうも本当に新しく入った人がもうすべからく協力するんです。もう私驚いています。ああいう皆さんが、お年寄りの皆さんが年に1回か2回、公会堂へ集まってお茶飲み会したり、ちょっと食べたり、そして若い連中は若い連中で集まって1杯飲んだり、祭りというとても盛大にもう何時までも飲んでます。これはいいことだなと思っているんです。そういうものがいいんです。本当にそういうものを守っていただくことがいろいろな意味でプラスになる、お金じゃないんだわ。ちょっと答弁なのかわかりませんが、できるだけ集落からもこの伝統行事は何とか継続してもらいたい、そのことはいろいろな意味でプラスになると思うんです。行政としてもそれをぜひまた皆さんにお願いしていきたいなというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 考え方としては町長と同じなのですが、私の集落、私、大門集落なんですけども、100軒近くある中で、100軒ある中でもやっぱり組がある中で、5組の中で、平均すると20軒ぐらいなるわけですが、その中でやっぱり参加してくれる、もう私の集落100軒近くいた中でいうと昔の人、昔って失礼ですけど、農家やっていた方が主に今大門はもうサラリーマン農家で、何も農家やっている人少ないですけど、現実にはもう神社なんか、行事なんかいうときには昔田んぼのものを持っていて、今もう耕作を人をお願いしている方が十何人、20人ぐらいいた。この方と、あと昔から住んでおられる方が来るような感じで、最近の新しい方というのは見向きもし

ないというんですか、来てくれないようなもんで、私はやっぱり関心がないのかなというふうな認識を持っているんですけども、その方策として私は1つ提案を考えているんですけども、私のところは春、神楽舞やるんです。神楽舞というのは、やっぱり一つの貴重な踊りなんです。何で神楽堂が始まったかという歴史がその神楽で示されているんです。ですから、その辺のものを、要は駅前地区あるんですけども、一つの集落だけでやるとなかなか人が来てくれとなればそれを何かの合同みたいなものを行った中で町が指導していただければその中でもっと大きく子供たちに植えつけていただけるんじゃないかなというふうに思うし、それで私ども大門は祭りやっただとしても昔は子供がいて、お店屋さんも来てくれて、結構にぎやかにしたんですけども、今子供が来てくれないもんだから、店屋さんも来ないという中で、だからその辺のものを学校関係もあるんですけども、大門としてみればもう子供が来てもらいたいという希望の中で、春はあれが違いますけども、必ず土曜日にやるというようなことで行われていますから、その辺の中で、行政の考え方の中で幼稚園だとか小学生とか中学生が来て、その神楽舞を見ていただいた中でこの出雲崎のよさを掘り出していただけるような考えなのか、それ自体が難しいよという考えは町長どんなでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） かつてお祭りは、春、秋の1回は神楽舞、子供さんもおってにぎやかだったんですが、最近はその傾向は薄れてまいりましたが、基本はこの神楽舞にしても今綾子舞もそうですが、後継者をいかに育てるかということがまず大事だと思うんです。全くそういう皆さんのかつての伝統ある神楽舞を踊れる人というのはもうなくなってきているのです。だから、私やっぱり出雲崎で祭祀である、祭祀というか、神主さんがまだ1人おられますが、なかなか踊り、神楽舞を伝統を受け継ぐ人がまずなくなってきている。そういう人たちをまずどう育成をするかということと、最近うちの町の神社、私は弥彦神社ですけど、神社のいわゆるもとの神主がもう土曜、日曜なんか言わない、それはだめですと。そういう時代になってきてしまったんだ。だから、そういう点もなかなか難しいんです。だから、基本にやっぱりそういうものをよみがえらせるということですが、まずそういうものに対するその伝統を継承する人を育てることがまず大事ですし、そしてやっぱりある程度そういう神楽舞なりに興味を持っていただく人たちをやっぱり関心を集める人たちを何とか啓発をするということが大事ではないかなと思っておりますので、町も出雲崎神社大祭とかいろいろなときには、あるいは石井神社の大祭のときにはお祭りをやるわけですから、そういうところにぜひまた皆さんが顔を出していただいて、ぜひまた神楽舞のよさなり伝統を継承してもらいたいなというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） そのとおりだと思うんですけども、やはり神楽舞みたいのと海岸で町の大祭のあれとは若干ちょっと違うような、踊りみたいなものがあるんだろうと私は思っているんです。ですから、その辺のものを子供たちに小さいうちから見たり、教えたりというのは海岸のほうは昔から

伝統があった中で継承されてああいうふうにならぬけれども、私ども旧西越農村部のほうにおいてはそののが薄れているという中で、それはやはり今それでいいかと言われると、やっぱり物足りないところがありますので、その辺を行政として教育委員会も協力していただきながら考えて検討していただけることを私としては希望させていただきたいというふうに思います。

5番目に入ります。不法投棄の巡回について、町はどのように、町長考えておられますか。聞かせてください。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 不法投棄の件数、まず申し上げますと23年度が9件、それ以降は4件前後で推移しております。昨年は1件というふうに非常に減少しておるところでございます。本町におきましては、不法投棄の巡回は定期的には行っておりませんが、郵便局との連携等によりまして協力いただく、また町役場職員も現場移動のときでの確認とか、区長さんにもお願いをして、そういうときというのは都合していただくというふうに対応しておりますし、常習的に不法投棄がなされている場所につきましては、看板を設置したり、あるいは投棄した人が判明した場合には適正な処理をするというような指導を行っております。今後もまた地域の皆さんからもこの不法投棄についてはしっかりと監視の目を強めていただくようにまたお願いしながらこれらの問題に対応していきたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 私、先般出前議会があったときに、神条集落に行ったときに神条の集落の方が不法投棄があつて困っていると、手の施しがないから、行政としても何とかしてもらいたいというようなお話を承りました。その中でいい回答、やはり難しい回答があつて、検問するとか、注意してくれたもの、捨てる人は何時に捨てるかわからないので、適当に捨てて逃げていくというような感じでなっているみたいで、神条集落の方が言われたには本当に困っているという中で、それを何とかしてもらいたいというような意見がありましたので、また行政自身も考えていただきたいというふうに思っています。私の中では大分前に、もう10年以上前になるんでしょうか。これ不法投棄が始まっているからということで、神社のミニ鳥居みたいなのをたまに下小竹あたりとか、稲川あたりに行くとき小さいの鳥居置いて、それで置くと神様のことだからということで捨てる人が減ったというようなことも聞いていますし、これの鳥居置いたのが与板の維持管理事務所でしょうか。そういうところからの発想の中でそれはなつたというふうに聞いていますので、その辺のものは余りまた町じゅう鳥居だらけになるってまたうまくないですので、その辺の強化の中で町としてはしっかり不法投棄がないような方向で進めていただきたいなというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいなというふうに思っております。

じゃ、6番目に入らせていただきます。後継者やリーダー育成についてどのように考えているか。

これ先ほど町長が述べたようなニュアンスの中でございますが、なかなか難しくなっているというようにございますが、改めてまた考え方を聞かせてください。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） おっしゃるとおり、これからやっぱり次の町を背負って立つリーダー、これらをやっぱり育てることが大事だと思うわけでございますので、私たちも、私の立場からもしっかりとこれからの地域に愛着を持って、そして地域をより育てると一つの意欲を持ってもらうような方式を、方式というよりも働きかけを積極的に進めてまいりたいというふうに思っておるわけでございますし、また先ほどから申し上げておりますように今団地にも新しい方が入っていただいたわけですが、そういう方々からもやっぱり出雲崎町というところにもう住んでいただいているんですから、改めてやっぱり地域のそういう問題にも大きな関心を持っていただいて、やっぱり行動するような形の中でひとつ頑張っていたきたいというふうに思っておるわけでございますし、今後とも先ほど来から申し上げていますように集落を中心としながらもなおかつ町の中核の中で働いて、意欲を持ってリーダーになってもらうような人たちからひとつまた大いに活躍してもらうような場所も考えていかなきゃならんというふうには考えています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） この件について、先般来年の予算的な計画の中で教育課のほうから上がってきた内容なんですけども、このリーダー育成についての予算組みの計上みたいな、このニュアンスがちょっと違うかもわかりませんが、上がってきたように私は受け取るんですけども、ですからこれはやっぱり公民館活動、昔私が、私も若いときあったもんで、20歳ぐらいのとき本当に公民館活動盛んでした。それで、その中で公民館の皆さん、職員もちょっと今に比べれば多いのかもわかりませんが、本当に地域に結びつきがものすごかったです。ですから、私も自分がリーダーになろうとか、なりたいたいかという事は全然思っていないで、何かをやりたいという中でそこへ公民館のところにこうしたら、そういうふうな指導の中で研修を私、四国のほうに行かせていただいたという経過があるんです。それが結果的に、じゃ勉強になったか、勉強にならなかったら勉強になったなというふうに捉えてはいるんですけども、この中でただ講演だとか講師を集めただけでしたらなかなか難しいので、やはり研修は私は大事だと思うんです。ですから、その研修の中の中身は教育課のほうで公民館というんでしょうか、公民館活動の中で検討されたいと思うんですけども、そういう考えの中についてもっと力強く今度はやりたいとか、ちょっと難しいよとか、そういう考えはいかがでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 議員さんおっしゃるように私どもかつてはそういう情熱を燃やしたことがあるんですが、最近そういうものは実に希薄になっておりつつあるということに残念に思っているんですが、やっぱりそういうものが大事だと思うんです。だから、今回町も、例えば良寛さん。良寛さ

んといっても本当に高齢化をして、本当に良寛敬慕をする人たちもだんだん少なくなってきた。やっぱり地元の良寛さんですから、良寛さんをいかに愛し、そして郷土の大事な宝として育てるかということで、良寛ファンクラブをつくろうかなという今提案も出ているわけです。私やっぱりそういう意味でも中野議員さんおっしゃるように地道なりともやっぱり先ほど郷土芸能もそうですが、一つ一つやっぱり次の世代へ受け継ぐ人たちから理解をしてもらって協力してもらうような体制づくりをこれからもうやっていく必要が私はあると思うんです。大事なことです。なかなか今のこの世知辛い時代ですから、かつての我々の若い時代の自由奔放にやった時代とちょっと時代は変わっているんです。それだけに私は、逆に次のやっぱりリーダーを育てる、これは大事な使命があるんじゃないかと思imasるので、いろいろまた皆さんのご意見を参考にしながら進めてまいりたいと思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） じゃ、ぜひまたそのような方向で頑張っていたきたいなというふうに思っております。

大ざっぱな2番目に入らせていただきます。郷土に愛着の持てる地域づくりについて、町長どのように考えておられますか。お聞きします。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） この問題につきましては、今中野議員さんから前段のいろんな質問の中でもお答えをしておるわけでございますが、何としてもやっぱり地域に愛着心を持って、この町に生まれ育ったということを誇りに持てるような、そういう風土を養う必要があると私は思っております。地域の伝統文化もそうです。そういうものを受け継ぐことがまたやっぱりそういう地元に対する新たな感覚といいましようか、考えを持ちながらひとつこの町でまた頑張ろうというような意欲も湧いてくるわけでございますので、今町も第2期の総合戦略の中で申し上げますような町独自の資源を大いに活用しながらいろんな事業を幅広く展開をし、そしてそれにかかわる人材育成をしながら一人でも多くやっぱり若い皆さんからこの町に愛着を持って頑張ってもらおうという一つの風土をつくり上げていく必要があると思imasるので、積極的に今後ともいろいろな場面を活用しながら進めてまいりたいと思っています。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 私も同感ですので、これは今町も進めております教育課関係のほうで大変進めているわけですが、これをさらに進めていただくように児童や生徒のうちから学校教育活動の中で実施していけるように教育長のほうからまた一段と学校関係に指導していただければありがたいというように認識しておりますので、よろしくお願ひしたいと思imas。

3番目に入らせていただきます。それから、地域を担う子供を育てる地域づくりについては、町長はどのように考えておられますか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） この問題につきましても、私たちも次の世代を受け持つ子供の教育というものはまず基本であるということで、積極的に施策を進めてまいりたいと思うんですが、うちの学校も大変そういう地域に密着したいろいろな活動を展開しておるなというふうに思っています。そういうものはやっぱり次の世代を担うそういう一つの人材育成にもつながるんじゃないかなと。先般もたまたま私たち天領で郵便局との意見交換会をやりました。そして、降りてまいりましたら「町長、町長。」と言って、皆さん子供たち寄ってきた。何だと思ったら、自分たちでつくった米を販売していたんです。おお、そうかということで私も5袋買って、そして買って食べようと思ったらはがきが入っていたの。そしたら、これを食べてひとつ感想あったら聞かせてほしいとあったので、早速感想書いて、ばかおいしかったということ書いてやりましたが、そういうものが大事です。なかなかやっぱり私は、隗より始めよで言葉じゃなくて、やっぱりそういう子供たちが行動に移しながら町民に呼びかけて、私たちがそれを受けとめて、そのいわゆる行為に対する感想を述べるということは子供たちを勇気づけるんです。だから、私はそういう意味で非常に徹底した学校も頑張っているなと思いますし、また私たちもそういうものに対しまして、強力にひとつまた進めてまいりたいと思いますし、最近はいじめとかいろいろ課題が出ておりますから、そういう面あらゆる観点からやっぱり時代の世相の移り変わりなんかで本当に我々がもう手の届かないところでいろいろな問題が出ていますから、そういう問題に対してしっかりと私たちは、やっぱり次の世代を担う子供たちに対する最大の努力はやっていかなきゃならないというふうに思っています。あらゆる方法、手段で子供たちから頑張ってもらえるような環境づくりに町もこれからいろいろな面で頑張ってもらいたいと思いますので、またよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 今私も町長、同感なんです。それで、これ町の広報、これを私見た中で出雲崎保育園もそうだし、小木之城保育園も運動会をやられたというふうな記事が、全町の皆さん見られたと思うんです。見た中で、いや、これはいいことだなというふうに常にこう思っているんですけども、これをもう一つ盛り上げていただく方策として、例えば難しいかもわかりませんが、行政の中の指導の中で合同みたいにやって、全町の園児を盛り上げるんだよという中で全町やると。その中の全町の中で出雲崎保育園も小木之城保育園も歴史があつてOBの方がもう、私はどっちにも属さない、行かれなかったメンバーですけど、私より若い年代の方はどっちにも入って、みんなOBだと思うんです。その方を集めていただいた中で大運動会みたいなのをやったらどうかなというふうに思うんですけども、今私がお話しした中の考え方はいかがでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 大賛成です、大賛成。私も今ちょっと考えておりますことは、今までいろいろな大きな行事、歌手呼んだりやっているんですが、私一遍今中野議員さんのおっしゃるような、そ

ういう人たちの活動を町民の皆さんから広く知ってもらおうということは最も大切なこと、大賛成です。そういうのを今あれしますと、きりりでも今そういう方向で計画をしているようでございますので、今、副町長から聞きましたが、私やっぱり大賛成で何とか今までのような華々しいあのイベントよりも私やっぱり町民が持ち寄りの中で、ああいうお子さんたちが集まってやる行事は町民の皆さん大いに感心と感動を生みます。そういう機会をぜひつくっていきたい。今回きりりのほうでやるようですが、その様子を見ながらまた今後ともこの活動、そういうものを中心にやるべきだと私は思います。

○議長（仙海直樹） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） ぜひやっていただきたいなというふうに思います。

では、私からの最後にちょっと私なりにまとめたのをお話しさせて終わらせていただきたいなというふうに思います。少子高齢化が進んでいるわけで核家族が進む町内、高齢化が進む町内の中で活動の充実、強化を図りながら居心地よい活動で、住みよい地域を目指してもらいたいと思います。そのためには私は世代間の交流を通して、やはり仲間づくりを推し進めていくには私としては一つの提案があるんです。これ提案ですので、また検討していただければありがたいなというふうに思います。その提案の一つは、さっき述べましたように私が20歳ぐらいのときに公民館活動の中で勉強させていただいたと。その中で私は公民館活動の充実と今やっている私どもの年代、社会福祉協議会がやっている仕事関係をどちらも強力に推し進めて、これを一つのゼロ歳から、町長が言われる亡くなるまでの間のああいう大きなスペースの中でもう一度まちづくりを進めるような提案をお願いしたいということで提案ですので、答弁はまた要りませんので、検討していただければありがたいというふうに思って、私の答弁終わります。

○議長（仙海直樹） この際しばらく休憩をいたします。議場の時計で午後1時20分より再開をいたしますので、よろしく願いいたします。傍聴いただきました皆様、長時間にわたり大変ありがとうございました。

（午後 零時23分）

---

○議長（仙海直樹） それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時20分）

---

◇ 小 黒 博 泰 議員

○議長（仙海直樹） 日程第1、一般質問を続けます。

次に、1番、小黒博泰議員。

○1番（小黒博泰） 私の今回の質問なんですけど、皆さんご存じのとおり、当町は最終処分場でエコパークいずもざきがありますけども、その埋め立て跡地の利用について質問させていただきま

す。

エコパークいずもぎきにおける産業廃棄物の適正処分は、環境保全はもちろんのこと新潟県内唯一の処理施設でありまして、産業活動の推進を図る上でも最も極めて重要な施設であると考えます。平成11年4月から供用開始しまして、平成30年8月には第3期の最終処分場が竣工し、10月現在で約11万5,151立米が処分されております。その前の1期、2期分は埋め立て工事が完了して、第1期分処理場跡地の約3万平米には太陽光発電で今活用されている現状であります。その中でもって町内でも唯一の特別ですけども、大企業と考えております。小学校の中で環境に対する学習会など地域貢献的にも行っている施設であります。別の、いい意味で私考えるには町の資源ではないかなという考えを持っております。

その中で質問させていただきますけれども、まず1つ目なんですけれども、今現在1期、2期分が埋め立て終わりました、1期分の跡地に先ほど言いましたように太陽光ソーラー施設をつくって、今稼働しておりますけれども、その後の2期分の埋め立て跡地の活用、今後の予定とか、今までそういう計画などを考えたことがあるか、伺いたいと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） まず、埋め立て用地の跡地の利用につきましては、これから環境保全事業団と検討を始めるところでございますが、再生エネルギーの太陽光発電を第1期処分場埋め立て跡地に設置しておりまして、今議員さんがおっしゃるようにエコパークいずもぎき環境学習体験風土として活用できないかというふうに今考えておりますが、例えば太陽光以外の再生可能エネルギー、風力や小水力施設の設置やビオトープ、家屋等の花とか木とか等の整備による自然環境力などによる、エコパークいずもぎきは子供たちの環境学習の場としての活用の可能性がもっともいいんじゃないかというような検討をしています。これにつきましても事業団は、非常に前向きに本当に町民各位のご理解をいただいた施設であるということで、全体活用を積極的に進めたいということでお話をいただいています。今申し上げましたように火力とか小水力、本当に小さなものでございますが、子供たちの本当に学習の場とか環境、また浄化、いろいろな面でまた環境周辺の整備等についても非常に前向きに検討しているということで、私にもいろいろお話をいただいています。今後やっぱりそういう計画段階に入りますので、また議会の皆さんといろいろな皆さんのご意見をしっかりと受けとめさせてもらって、本当にあの施設を受け入れた、その町としてもやっぱりしっかりと維持管理はもちろんでございますが、それに伴う環境等々、モデル的なものをつくってもらいたいというような気持ちでおるわけですし、環境保全事業団なども非常に前向きです。前向きに検討しているということでございますので、埋め立て等々が進行する過程におきまして、しっかりとまた打ち合わせをしながら進めさせてもらいたいと思っています。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 私も事業団の中野所長とちょっとお話しさせていただいて、事業団としてもそ

の跡地の利用を考えて、地域の貢献のために何かいい施策がないかという話の中で実際3期工事分もかなりの借金をして施設を建てたということで、事業団主体としては今のところは何をするかという考えはないと。ただ、できればその地元の出雲崎の町のほうでそういう計画等があれば事業団としても全面的に協力したいしということの中でもって、実際今ソーラーウェイが国際航業でもってしていますけども、あれも正直聞くところによるとシャープか何かのパネルを使っているんで、寿命的にはかなりあるんじゃないかという話の中で、今ソーラーの売電とかも結構難しくなっているところでもって、もうソーラー的なそういう太陽光というのは考えてはいないような話の中でもって、事業団じゃなくて町として町長の考えですけど、あそこの今2期分が正確な面積じゃないですけど、全部でもって9万7,000平米、多分1期、2期で埋めた中でもって、太陽光で今約3万平米使っているんで、あと残り平たんな部分というと4万から5万平米ぐらいはあると思うんですけど、そのうち今最終土盛りですか。表土でもって構内の土を1m50盛っているという中で、これを冬に入っているんで、今ちょっと雪とかの関係で今中止して、今7割程度何か覆土のほうは終わっているらしいんですけど、春先また5月から盛り土を再開して、来年2年中には完了するんじゃないかという中で正直沈下するんで、基礎とか、そういうふうな建物はまず無理だという中で、話の中で町として何かそういう計画があれば全面的に協力したいという話の中で、町長自身でもしそういう町としてそこを利用するという考えの中で何か施策というか、方策というか、そういうのがありましたら伺いたいんですけど。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 大変町民各位にご迷惑をおかけしながら私を選択をしていただいて、本当に私も喜んでいるわけです。率直に申し上げまして、この処分場は当初大変危機に面したことがございます。バブルがはじけまして、物が入らないということで非常に赤字。そして、大きな焼却施設、これが非常に大きな重荷になったわけがございますし、また例の塩害問題でちょっと、ほんのわずか、被害は少なかったんですが、11億、2億もかけていわゆる塩分の濃度等々の処分をすることで、もう大変な過大投資をしまして、本当に危機感にもう厳しい時代があったんです。でも、もう今は非常に経営自体は安定をしております。率直に申し上げまして、県も今財政大変厳しい状態でございますし、補助金の問題とか、あるいは派遣職員の問題でございますが、これはもう絶対文句をつけられない施設になっておりますし、非常に安定をしていることだけは申し上げて、その跡地利用についても申し上げますように非常に事業団も積極的に町の意向もお聞かせいただきたいということなんです。まだ第2期の埋立地は今おっしゃるように埋め立ては終わったんですが、あるいは覆土の問題とか、相当なものが入っていますから沈下するわけですけど、そういう施設の活用について、確かに公共的な施設はだめなんです。あの広大な面積をどう活用するかを町としても、また皆さんとよく協議をして、より有効に町のやっぱり将来にプラスするような何か有効な施設といいましょうか、跡地を利用していかなきゃだめだなというふうには思っているわけでございますので、

今私がここに何をどうするかというのはちょっと私大分まだ明言ができる段階ではございませんし、事業団も先ほど申しあげましたように非常に一つあそこは環境の勉強の場としたいぐらいの非常に勢いを持っておりますので、総合的に第3期埋め立てが終了するまでのやっぱり工程の中で全体像を確かめる、全体像をどうするかということを中心に考えていく必要があるんじゃないかと思っておりますので、今の埋立地をどうするかということは今私自身が具体的なことを申しあげられませんが、また皆さんもよくちょっとまたご検討いただいて、町の意向をしっかりと反映できてプラスになるようにしていきたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 今何するか、私も正直今何をすればという、ここで提案でもって最後に書いてありますけれども、今言ったように事業団自体の基本理念というかが、これ見たやつで3期工事分るくるのを理念として安全で災害に強い施設づくり、地域に貢献できる施設づくり、地域に信頼される施設づくりということで、最終処分の3期工事を進めたわけなんですけれども、その中で今町長も言ったように小学校とか、地域のその環境を考えるような場として使えれば一番私もいいと思います。その中でもって建物がつくれなくてという中で、広大な面積があるわけです。その中で町と、2つ目になりますけれども、事業団と町とでもってそういう公園的な施設をつくって、その環境を勉強する施設にするとか、そういうふうな話し合いを先ほどこれから進めるという話ですけども、ぜひ早めにしていただきたいと。それ私個人的な意見ですけども、今所長が中野さんで地元の方なんで、正直地元の方がそのトップでいるうちにそういう先の計画的なのを提案しておけばその後何かするにしても町にとっても有利というか、話が進めやすいのではないかなと思いますので、その中でもって先ほど言いましたけど、森林公園とかであればあれですし、所長聞いたら最終的にあそこは森林開発事業ということで埋め立てしたんで、管理的にはずっと続くと思うんですけど、何も施設がなかったり、今の太陽パネルもいつまで、あれするかわかりませんが、なくなれば利用がなくなるというか、なければ最終的にはあそこにただ、また、木を植えて森林に戻す計画ということを聞きました。であれば、今のうちから芝を植えて憩いの場じゃないですけど、そういう施設がそこにできれば、長岡の悠久公園じゃないですけども、産廃の跡地というイメージはちょっとありますけれども、それを逆にって何か公園のそういう子供さんが遊べるような施設とか、そういうふうなのでもってまた環境の学ぶ場にできればなと私も考えております。そのほかなんですけど、あれだけの3期竣工式行ったときもそうですけど、3期分のあの埋め立ての外周もあれだけのいい管理道路ができています。あれはかっていませんけど、多分1キロ以上、1.5キロぐらいあるのかな、1週回ると。あの辺を遊歩道的なのでもって土日あそこが休みのときでも開放できるような感じでもってできないかなという考えも私は持っているんです。だから、公園あって、遊歩道イコールそういう車も来ませんので、何かマラソン大会とか、そういうふうなイベントも計画しても事業団としても人を呼んで事業団の活動なんかも一緒にPRできれば町もいいし、事業団としても

環境保全等、あとそういう産廃の、今県内あそこしかありませんので、今後またそういう施設をつくるというところのPRじゃないですけど、立地の理解を求める場所としても非常にいいかなと私は考えているんですけど、町長はどうお考えでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 中野所長、今地元で長く勤められて、全く私も本当に喜んでいるんですが、結果的にはやっぱり事業団、私も理事をしておりますが、事業団が決定する問題でございますので、私も理事の一員で理事会、少数なんですけど、理事会へ出ますともう厳しい、私は、ことを申し上げている。それについては、やっぱり私は地元ですから、理事の皆さんも私の発言に対しては全く賛同してくれるんです。私は、今言ったように小黒議員さんのおっしゃるように今からやっぱり全体像を埋め立て、埋立地等、全体像をどういう形に持っていかということを経理会である程度もう原案をつくるべく今から行動を起こしてということをお申し上げます。やっぱり理事会が相当あれは持っていますから、その中で私も理事ですので、私も理事会だと積極的に、徹底的に環境保全から安全施設から申し上げるんです。地元ですから、やっぱり地元のあっせんというのは強いんです。私は、議員さんのおっしゃったようなことについての町もそういうことに対する期待をかけているから、今からそういう全体像を確かめながらそういうその計画をつくる、立案をして、やっぱり私は言うんです。事業団も今上越で次なる施設を求めているんです。そうすると、地元のいろいろな皆さんの何か希望とか、アンケートとるとか何かやっているんですけど、やっぱり私はいつも言うんです。やっぱりここは簡単に、私たちの場合は、あの稲川畜産団地郊外と、あの土地をいろんな団体が取得したときに出雲崎の将来ないというので、徹底的に町民の皆さんのご理解を求めたんですけど、今やっぱり環境問題厳しいから、住民はなかなか納得しないです。だから、私は今の出雲崎の公共関与の埋立地をしっかりと、もう事故はない、そして将来的にも大きく地域に貢献する施設なんだということをアピールしなさいということを言っているんです。そのことによって受け入れもある程度順調にいくんじゃないかと、私は声を大にして言ったんです。そういう意味で今回の小黒さんのご意見を理事会の中で私はしっかりと発言をして、速やかにまた一つ、第2、第3の計画というか、全体像をまず確かめながら計画的に整備をしたいということをお申し上げていきたいと思えます。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） ぜひ理事会のほうでそういう発言というかをしていただきたいと思います。私その今ソーラーパネルの3万平米、どういう形でという話をちょっと聞いたときにあそこ借地をもって貸し出しているという中で、幾らぐらいですか、値段を教えてくださいという中で、年間あれだけの土地をほとんどただ同然じゃないですけど、年間で70万円ほどだということなんです。なんで、その借地の料金等々考えればその70万円が年間安いのか、高いのか、ちょっとあれですけど、その判断基準にもなりますけど、向こうは売電して70万円ぐらいだったなんていうのであれですけど

ど、町がもし借りたとしたときにその辺の年間の使用料みたいなものほとんどただ同然でもって貸してもらえるような方向づけをぜひしていただきたいし、私あそこ芝とかでもって広場にして環境もそうですし、今あちこちでやって野外の音楽フェスだとか、そういうふうな場所があれば、あそこであれば正直山の中なんで、多少の騒音って言っちゃあれですけど、出してもそう住民の方に影響もないのかなって、それなりに周知は必要だと思うんですけど、そういう場所がまたあればこれからその町の若い人たちがまた、今海岸でストリートジャズとかやっていますけど、今度山のほうでそういうふうなのという場所の提供にもなるかなという考えで質問させていただきました。

その中でもって最後の質問というか、これ提案になりますけれども、そういう公園もいいですけど、今あちこちでバイオマスの森林の間伐材等を利用したそのバイオマス発電とかがあちこちで行われております。最近というか、近間でいくと三条もそうですし、長岡もよつば森林組合と計画していますし、十日町のほうにもできると。そういった中でもって、私そこに、あここに発電所をつくれとか、そういうんじゃないくて、要は出雲崎も間伐だとか道路もそうですし、そういう間伐材とかが出る、そのストック場じゃないですけど、今回議員で視察で北海道知内町に行ったとき、あそこは林業が盛んなんで、その中でもってその間伐を利用した中でもってある程度その木を集めて、それをチップして、それを役場庁舎だとかプールだとか、温水プールだとかにみんな木を燃料にやっているところを視察させてもらったんですけども、やっぱりこれからまたCO<sub>2</sub>削減だとか何かもありますので、そういうバイオマスの燃料の蓄積というか、集める集積場としてその広大な土地を利用できないかなという考えはあるんですけども、その辺町長はどういう考えでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 小黒さんのご提案のような、いろんなことが考えられるわけでございますので、今ここで小黒議員さんのおっしゃるような提案をそれはそれで参考と、そういうこともあるんだということを選択肢にしながら進めてまいる。結果的には子供たちの環境、あるいはまた町民の皆さんから憩いの場としてもらうというようなこともございますので、やっぱり今小黒さんのおっしゃるようなこともございますし、また今運動、サッカー等も盛んになっておるわけでございますし、そういう多様な施設に活用したなら若いも若きも活用していただける。やっぱりその最高の施設をつくりたいと、持っていくべきだと。そして、そこにおける町としての要望でいろんな施設、例えばつくるというようなときに借地料とか、そんなことあり得ない。当然私は、こんなこと言っちゃ失礼ですが、今順調なんです、埋め立ては。そして、唯一新潟県の中に、あなた方はこの施設がなかったらどうするんだと。もし今回の集中豪雨であの災害の起きたものをどこに処分するか、四苦八苦しているわけです。だから、私は肝心なこれだけの施設を我々はやっているんだから、あなた方は適宜協力していかないと、場合によっては出雲崎が財政厳しくなれば約束は約束でも、さらに私は要求するからと。どうぞ要求あったら言ってくださいと。私は常にそうでしょう、あれだけの選択したんだ。もう県は俺の言うことしっかり聞いてもらわなきゃ困る、もうそれを強くやってい

るんです。いいかね、あなたのところは順調にいつているんだ、約束は約束だ。前に私は森さんと約束したときは、町長、わかったと、おまえの気持ちはわかる、わかるが、次のネクストの問題もあるんで、必ず考えるから、今回だけはこれで渋々私が了解した。そういう経緯もあるんだから、順調にいった場合によっては、町はさらにまた要求するからと申し上げた。町はさらに望みます。心配なく、いろいろ要望出していただいて、しっかりとそれが根づくりしなきゃならないと頑張っていきたいと思います。だから、いろいろあったら今から考えておいてください。よろしく願います。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 大変私は今の答弁聞いて、将来期待を持っています。私何でバイオマスという、以前からそういう興味もあったんで、あれですけども、今出雲崎、水害とかでもって海岸はすごく流木等々あります。毎年町もそうですし、県のほうもそうですけど、海岸清掃で昨年30年度でもって約1,000万で、今年度31年度予算でも1,450万、海浜クリーン作戦でもって予算計上してあります。それが全部が全部処理費に当たっているとは思いません。作業員とか、そういう機械費もあるんですけども、あの流木等々を県も正直な話、多分大きい木とかはまとめて集積しておいて、後で県が何かのときに多分処分するという方向で過去やっていると思うんです。そうした中でそういう流木とかもお金を払って、ただ持って行って焼却処分するんじゃないで、そういうのをまた逆にチップだとか何かでそういう再利用じゃないですけど、できないかなという。そういうお金を払って処分するだけじゃなくて、逆にそういう近隣とかそういうふうなところのお金をもらって、それをまた材料にして売却というか、売ればまた要はお金が入ってくるあれなんで、そういう発想というか、そういうふうな関係の中で海岸も予算があればすぐ木の処分とかもすると思うんですけども、予算なければ去年あたりもそうですけど、あそこら辺に木が山になって、海水浴に来られた方の見た目にもよくないですし、それをまたここら辺で燃やそうという人も中にはいると思うんで、その辺で海によったごみなんで、それをまた何かで利用というのは難しいのかもしれないけども、ほかではやっていないことなんで、ぜひそういう流木を利用して、まきとかそういうふうなの利用できないかなということで、そのバイオマスの活用施設の貯蔵というか、集積場というか、そういうふうなのでもって提案させてもらったんですけども、今後そういう海岸の流木ですか、そういうふうなのも処分するだけじゃなくて、再利用とかその辺も考えていかなければだめだと思うんですけども、町長はその辺どうのお考えでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 先般の北朝鮮の船が漂流してちょっと話題になりました。私もいろんなところ出るんです。大きい船でしたね。すごい船が流れ着きましたねって。いや、私テレビ見たときそれ以上に唖然としたのはごみ。ごみがああテレビで放映されて、全く残念に思いましたが、現実です。しかし、その流れ着いた木をどうするかということは今後海岸清掃、県ともまたひとつ打ち合わせ

しまして、またその処分につきましてもバイオマスで果たして塩気のあるものは利用できるのかどうか、それはまた次の課題として海岸清掃なり流木の関係については、国も県もこれから真剣に考えていくと思いますので、その時点の中で対応しながら、これと今の跡地利用、活用については距離を置きながらやっていくべきじゃないかな。両面作戦で進めていくべきじゃないかなというふうに考えていますので、それはそれとして海岸流木の清掃については、これから早めにどういう対応ができるのか検討してまいらなきゃだめだと思っています。

○議長（仙海直樹） 1番、小黒議員。

○1番（小黒博泰） 連休明けに多分海岸清掃すると思いますんで、あれですけども、その中でまた流木の問題、いろいろな問題出てくると思うんですけども、ぜひ海水浴等々の美観の問題ですけど、その辺でもって早急に対応していただきたいと思いますし、エコパークの跡地利用に関しましては町長、理事でこれから強く言っていただいて、少しでもまたこの町のメリットになる方向づけができるような意見をぜひ言ってもらいたいと思います。

これで終わります。

---

◇ 三 輪 正 議 員

○議長（仙海直樹） 次に、7番、三輪正議員。

○7番（三輪 正） では、イノシシの被害の現状と対策についてということで質問させていただきます。

近年イノシシの出没地域と被害が拡大しております。町と関係者は、拡大阻止に努力されていますが、出没が全地域に拡大する状況であります。また、鹿などの目撃情報もあり、町民の不安が増している状況でございます。それで、現状と今後の対策について伺います。それで、①、②とありますが、イノシシの出没地域と被害の状況、そして2番の被害と地域の拡大阻止対策について、この2つを一緒をお願いしたいなと思います。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） イノシシの被害の現状、対策についてのご質問でございますが、これは本当に三輪議員さんおっしゃるように大問題です。これからさらにこの問題が本当に喫緊の自治体としてもどう対応するか大きな課題になると、問題になるというふうに私は考えています。それだけに今イノシシの出没地域と被害の状況でございますが、これは海岸地域を含めまして町内全域出没をしているという報告をいただいております。特に農村地の被害の状況につきましては、中越農業共済組合資料によりますと、収穫前の田の踏み荒らしにつきましては、出雲崎は10戸3.26ヘクタールだそうでございます。平成30年度に比べますと約5倍に拡大しているということでございますし、沢の奥のほうでは農道やあぜ、この掘り返しが数え切れないほど起きているというのが現状でございます。住宅地付近も出没し、庭や畑掘り返しが多数見受けられるということで、被害状況、掘ったり

掘り返しを把握し切れないほど全町にわたっているというふうには私は考えています。

被害の拡大を防止する一番の対策は、やっぱり捕獲をして個体数を減らすということは考えておりますが、そのためには猟友会の皆様方のご協力をいただきまして、くくりわなとか、あるいはまたそれらによりまして4月から既に13頭捕獲をしています。冬場のこれからは沢のほうで猟銃を使用して捕獲するという予定でございますが、今年14日にまた猟友会の総会がございます。その席で猟友会の皆さんからその辺の具体的なまた行動計画なり、あるいは今後に対応する情報交換をしつかりとやらせていただきまして、猟友会の皆さんを中心に何とでもこの頭数を減らすということに対してひとつ頑張ってくださいたい、町もまたそれに対応していきたいというふうには考えています。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） もうほとんど全地域にイノシシが出ているということでございます。昨年の今ごろ、私もちょうど全員協議会で質問いたしましたけど、そのときはまだそこまでいってなくて、この1年でこれだけいろいろ対策をとっても、これだけ急に広がったということは何かまた対策を、今までと違ったものを何か考える必要があるんじゃないかなと、そんなふうに思うわけです。それで、11月の17日ですか、役場のすぐ下ということで出たということで、私もしょっちゅうこの下の道路は通るんですが、非常に気をつけて今通っています。ぶつかったらどうするのかな、なんて思っておりますし、またあそこは通学道路にもなっていますので、非常にまた問題になるのかなと思います。それで、10月の26日には鹿が目撃されたということで、今まで鹿というのは私ども聞いてなくて、よそのことかなと思ったんだけど、いよいよここまで入ってきたということでございます。私、先週田中のほうへあるところにも訪ねて、いろいろほかの話に行ったらたまたまイノシシの話出たんです。そこの奥さんがこの前ネギを収穫していたら、ひょっと顔上げたら目の前にイノシシがいたと。それで、皆さんこういうときは後ずさりすればいいんだということで、後ずさりしたけど、またついてきたということで、いや、おっかなかった、おっかなかったなんていって、それで何か獲物があったんか知らんけど、横へ移動して、それで本人はやっと難を逃れたということで、田んぼをわたって山のほうに逃げたと。それも畑のすぐ、自宅のすぐそばです。だから、場合によっては作業所あたりも入っていたのかもわからないと、そんなことが非常にもう身近になっていると。中にはそのほかにも畑と一緒に作業をしていたね。なんていってそんな話もありますし、洗濯物取り込もうとしたら、全然逃げないでずっとそこにいましたとか、そんな話もいろいろ聞きますので、本当にこれ大変なことになると思います。それで、今話ありましたけど、稲作の被害とかいうんだけど、これ以外に今後厄介になるのが言いました水路とか農道の被害です。これあたりはなかなかそうでなくとも今だんだん農家の戸数が減りまして、大体この地区は誰々さんが耕作しているとか、大体今そうなりまして、今度そういうふうになった場合復旧が非常に今度手がないんです。だから、そうなるとう極端に言えばもうそういうところは耕作をやめようという考えが広がるん

じゃないかなと、そういう面でも非常に大変だなと思っておるわけです。

それで、今猟友会が中心になって実施隊ということでいろいろ私もお聞きしましたら、わなもかなりかけてあるというんだけど、なかなかイノシシが賢いということである方に言わせるとイノシシは3種類あるんだと。普通のイノシシとちょっと足らないイノシシと賢いイノシシがあるんだと。それ多分捕まるのはどうしてもやっぱりどうってことないのが捕まるから、結局すばしっこい優秀なのだけが残るとますます大変なことになるんじゃないかなとか、そんな笑い話でやっていたけれども、そんなことで非常にイノシシも年に1回4.5頭平均で産むということで、そうしますと生息数の7割を捕獲しないと増えるばかりなんだそうです。だから、非常にこれ大変だと思うんで、それ私は思うんですけども、この前町がドローン、今度補正予算でのりましたけども、そのドローンの使い方、詳しくはわかりませんが、共済組合がドローンを使って撮影したのをこの前機関紙で見ましたけれども、夜間でもある程度移るといふうなことで、その辺も大いに利用して実態を確認するというのと、それで東京都足立区ですか、あの辺でもイノシシが生まれて、テレビでずっとやっていましたが、なかなか警察もかなり大勢出動してやっていましたけど、結局取り逃したということなんですけど、最後は網で捕獲しています。だから、やっぱり私は網もある程度用意しておくべきじゃないかなと。例えばこの役場の下でかなり大騒ぎして、パトカー3台来たとか何か聞いていますけども、結局捕まえられなかったというときは棒かなんかじゃだめだから、それで銃もなかなか打てないんだそうです。人家が近いと。そんなことで網か何かもやっぱり用意しておくというのも必要じゃないかなと思うんですが、その件ちょっと幾つか申し上げましたが、その辺の対策はどんなでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 三輪議員さんおっしゃるように私も担当課長にドローン導入、結果的には、最初は災害を主軸にしながらもおかつイノシシの出没が多いから、そういうものをドローンで確認したらどうだというお話をしたんですが、いや、町長、そのドローンというのはなかなか技術もそうだし、夜の夜行するにはなかなか難しいという、そうか、そういう方法で確認ができればな。ただしそれである程度確認をしながらこの土地にはこれだけの生息数があるんだから、徹底的にそのけもの道を中心にしながらやるという方法もあるんだがなと、ちょっと難しいというんですが、という話でしたが、先般そうでしたね。共済組合があれだけ鮮明にもうイノシシ9頭が生息しているのが出ていました。出雲崎は、そこまではできないわけですが、私やっぱりそういう生息地をしつかりと把握をして、要はそのけもの道をたどりながらどこに巣があるのかということを追跡して、それを徹底的にせん滅するという。私は、これがないと本当にあなたおっしゃるように倍々で増えてくるんです。私は、それがもう絶対必要だということを申し上げて、さらにおっしゃるようにこれだってそうです。人が困んでもなかなかできない。そして、鉄砲で撃ってそこですぐしとめるわけだけれども、住宅地は絶対だめだ。私は、おい、麻醉銃はどうだと。そしたら、猟友会の皆さん

も麻醉銃入れれば、麻醉銃でばつと撃てばいいねかって、いや、町長さん、麻醉銃買うには、いや、それは麻醉銃が必要となれば町がいかにも対応するからやってくれと。ただしこれは、まだまだどういう網がかかっているかわかりませんが、もう何とかやっぱり対応しなきゃならない。網も大事です。網もまあそうでしょう。捕獲するにはどうしたほうがいいのか、それもやっぱり検討しなきゃだめだね、住宅地をただ取り巻いて、しっしつと言ったって解決できない。山へ逃がす程度だ。だから、やっぱりそういう市街地、あるいは人家に出たときにはどう対応するかということもやっぱり対応策としてどういうことが考えられるか、その辺もちょっと猟友会が14日にありますんで、よくひとつまた皆さんと意見を交換して、これイノシシ対策はもう大変な問題です、しっかりとやらんと。そういう意味で三輪議員さんおっしゃるようなことについても十分検討して、どういう方法が一番の確か、これからやっぱり知恵を絞っていかなきゃだめだなと思っていますので、そういう段階で主として猟友会なりにまたいろいろ頑張ってもらうための措置も必要となってくる可能性がありますので、そのときはまたご理解をいただきたいと思っています。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） 今警察も出ましたが、それは後でまたやりますけど、例えばおりを設置される方聞きますと、見回りがなかなか大変らしいんです。ただ、設置しておりを置いてそのままにしておくわけにはいかないから、毎日か数日置きに見回りしなきゃだめだと、これが非常に負担になっているというふうな形なんです。それで、この前長崎県の五島市の記事を見ましたら、あそこには捕獲の感知センサーが結構設置してあると。また、捕獲を卒業したというところにはこういうのが出ているというものが全部キャッチできるようになっているということで、非常に効果を上げているということなんで、ただ人力、人力いってもそうそう猟友会の方も中には仕事を持っている方もあるだろうし、高齢の方もあるだろうし、なかなかこれ大変だと思うんです。そういったことも今後あわせて考えるべきだと、いろいろまた先進地をまた研究されてぜひ考えていただきたいと思います。

それで、先ほどの網ですけれども、これ必ずしも町が用意するというばっかじゃなくて私ら何かあれば町民課とかないしは警察に連絡してくださいというんで、警察も非常に情報が入るわけです。それで、署員の方も何人かおられますから、すぐ飛んでこられるわけですけど、例えばこの与板警察にそういうふうな捕獲器具を用意してもらおうと。そして、あればすぐそれを持って飛んでくるというようなこともこれから考えて、要望したらいかげなかなと思うんです。

それと、これは非常に法律的にも面倒だかもわかんないけど、例えば麻醉銃でも何かあっても今ほとんど県内にはおられないと、撃てる方が。ほとんど長野県とか、県外から来てもらわないと、そんなのとっくに逃げてしまいます。そういったのも例えば警察署あたりに何かそういうふうなことを用意して、いざというときは対応できるかというようなことも町長も県の町村会長の立場にあられるんで、ほかの町村の方もかなり困っていると思うんで、その辺ぜひ交渉なり、これは非常に

法律的にも面倒だと思うんだけど、そういうふうなことも今後考えていくべきじゃないかというふうなことも必要だと思うんですけど、町長いかがですか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 三輪さんおっしゃるようなもろもろのやっぱり方策があるわけですので、その辺も町としての対応、あるいはいわゆる警察対応、県の対応といろいろあるわけですので、私たちもこの県の部局長にいろいろ課題を検討する会議を持ちますので、そのとき今おっしゃるようなイノシシ対策も真剣勝負かけてやってくれということをお願いしながら、県としての対応も改めて施策として施すように、やるように強く要望してまいりたいと思いますし、私たち町も町なりにやっぱりいろいろな方策を考えていかなきゃだめだと思っているんです。そういう意味で若干お金もかかる可能性もございますが、お金ではかえられないです。やっぱり被害を拡大させないためにも対応していかなきゃならんというふうにも思っていますので、今三輪議員さんおっしゃることも十分参考意見で、こういう意見もあるし、こういうことも他ではやっていますよ、こういうことはできないのかというようなことも参考例として挙げながら対応していきたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） それで、これ猟友会の方にお聞きしたんですけれども、この出雲崎の周辺は、和島、三島、与板が接しますか。それで、あと西山とかいうことなんですけど、全部合併した町村ですよ、周りは。そうしますと、ある方は、出雲崎はそれでも一生懸命こういうふうに対応したり考えているけども、ほかなんか大したことないんだよねと、だっけ困るんだというふうな話聞いたんです。それで、実際正確かどうかわかりませんが、和島さんあたりだと猟銃を撃てる方は今聞きましたら一人しかいないということで、ほとんど無理なんだよねということは、周りがそういう無理ということになると、もうけものというのは和島とか、出雲崎とか関係ないわけなんで、そうすると非常にこれ困ったことだなと思っていたんです。だから、そういう面で私は例えばあれ10月でしたか、和島の阿弥陀瀬の林道で熊が出たということで、それが学校に伝わりまして、中学校が保護者のところにメール、小学校がチラシを渡したんですか、そんなことがあって、その後熊が出たということは私も聞いておりませんが、だから、私も役場へ、いや、実はこういうふうな今話聞いたんでというふうに聞きましたら、役場は一切そういう情報は入っていなかったということで、これからはやっぱり周りの町村と、一つの町村だけが一生懸命やったってこれは無理だと思うので、やはり情報の交換、それと場合によっては一回寄ってみて関係者と会って、こちらは今こういうふうな被害が出て、こういうふうな今対策をとっていると。おたくさんのところはどうかというふうなことは今やられているのかどうかわかりませんが、これはぜひ必要だと思うんです。例えば長岡市の宮本ですと、あそこですとカモシカですとか、熊が出ているのが目撃されているので、このままいくと場合によっては出雲崎に熊がということは、もうあり得ないわけじゃないので、

そうなるとうりが大騒ぎしても出雲崎は全然そういうことは知らなかったということじゃ、いきなり出てきたということになると困るので、その辺をぜひ隣接町村と連携とれるような、また情報交換、そしてまた1回ぐらい寄って、顔合わせてこうだとかいうふうなことが必要だと思うんですが、町長どうでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 議員さんおっしゃるとおり、イノシシにしろと鹿にしろと猿にしろと行動範囲は広いですから、やっぱり出雲崎だけでいかに対応しても全く効果がないわけですので、やっぱりここまで大きな被害なりいろいろな課題が出てまいった以上はおっしゃるように広域的にしっかりと連携をとりながら情報交換なり、あるいは長岡市なりいろんな、刈羽さんを含めてですが、全体的な体制の中でいかにこの獣害の害を、被害をいかに食いとめるか、やっぱり前向きに検討する必要があると、私は思っています。そういう意味でやっぱりこれも課題にしながら、町は町としての対応をしながらの、町だけで対応し切れませんので、そういう情報交換の中で広域的にやっぱりこの問題に真剣に取り組む必要はあるというふうに考えていますので、機会を得ながらまた担当もおりますし、進めてまいりたいというふうに思っています。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） これ最後にいたしますけれども、先ほど傍聴の方も非常に今イノシシ困っているんで、午後も本当は残って聞きたいんだがなということで帰っていった方もおりますし、私朝階段上ってききましたら傍聴の方が、いや、実はこういう被害があつたいね。何とかしてくれねというふうな方もあつたんで、これ非常に今町も広報ですとか、チラシが配られたり、非常に一生懸命やっておられるなと思うんですけど、何か機会がございましたら一応イノシシ対策ということで、何か研修会とか、講演会でもいいですし、私らもいろいろまだ聞きたいんです。私らもそれぞれできることは何が、どういうふうなのがあるのかというのがあるんで、何かそういうふうな機会を専門家の方、いろいろおられると思うんで、そういう方から来てもらってぜひ猟友会なり町はこういうふうにするけども、住民としてそれぞれできることは何があるんだろうというふうなことありますんで、ぜひそういう機会をつくっていただきたいなと思って。

それから、あと町の中に今町民課と、それから産業観光課が担当ですし、そのほかに猟友会さんがあって、あと警察ですとかあるんですが、そういうふうな方が一堂に会していろいろ対策会議をやるということというのはやられておられるんでしょうか。その辺聞かせてください。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 確かにこれは、単なる1課でなく、横断的にしっかりと連携をとりながらやっていかなきゃならないと思いますし、やっぱり町民に対するそういう今後起こり得る被害とか単に頭数は増える可能性がございますので、それに対する注意喚起なり、あるいはやっぱりその対応等に誤りのないようにひとつ十分理解を求めるといことが大切だと思いますので、これは単に観光課

とか町民課だけではないです。横断的にしっかりと全体的なやっばり連携をとりながら、しっかりと対応していくべき問題になってきたなというふうに考えていますので、今後ともこの問題について真剣にまた現状をしっかりと把握をしながら広域対応なりそれぞれ他町村と連携をとりながら進めてまいりたいというふうに考えています。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） 今幾つかの件ですとか、あとセンサーの件ですとか、今周りの町村との連携ですとか、あと市内のそういうふうな対策会議とか、いろいろ申し上げましたが、また時期ありましたら、ぜひこれはこういうふうにしましたと、これはどうしても無理だというふうなのをぜひ聞かせていただきたいです。1番目の質問はこれで終わります。

2番目ですが、御金蔵の復元についてということでございます。佐渡金銀山が世界遺産の最有力候補であり、世界遺産に登録されると当町の金銀荷揚げ地も波及効果が出る。出雲崎の歴史的価値を示す重要遺跡の御金蔵を復元して、出雲崎の歴史の発信と観光に生かすべきと考えるが、町の考えをお願いいたします。そして、実は佐渡金銀山も当然申請なり登録になっているはずだったんですが、いろいろ何か事情がありまして、延びに延びて2022年、令和4年ころの推薦になるんじゃないかというふうな情報でございます。そうすると、もう3年ぐらいですか。そんなことで、それまでに例えば沖縄関係ですとか、それと北海道、東北の縄文遺跡とかというのが入って、その後になるだろうというふうな形でございます。今佐渡は、昨年4月にきらりうむ佐渡という佐渡金山の関係の施設を約9億3,000万だそうですが、つくっておられます。そして、私も平成22年に全協等で御金蔵の跡地を明らかにすべきじゃないかというようなことで、まだ正式には明らかになっておりませんが、一応金銀御用小路のところに一応看板を昨年度一応設置していただきました。そして、27年の一般質問で御金蔵の整備ということで一般質問をやっております。いよいよあと数年後には世界遺産になるわけですが、当然世界遺産の要件には出雲崎は入っておりませんが、それに関連する御金蔵ということで一応書類見ますと三間の二間の蔵だという形でございます。それで、今全国探しましても、全国で最も佐渡相川から江戸までですが、御金蔵が残っているという話は今ないんです、どこでも。同時に御金蔵をわざわざつくったところは意外と少なく、あとは例えば佐渡の小木は木崎神社の建物を利用したし、長野は善光寺というか、お寺を利用したというふうなことなんで、非常に出雲崎は貴重でございます。そんなことでぜひ今のうちから検討していただきたいなと思っているんですが、その辺いかがでしょうか。

○議長（仙海直樹） 町長。

○町長（小林則幸） 三輪議員さんの今質問の中で出ておりますが、非常に佐渡金銀山の世界遺産を目指しながら、三輪議員さんも本当に執念を燃やしておられるわけでございますし、私も同感でございますし、またそれにかかわる御金蔵跡についてのいろいろ一般質問をいただいていることは事実確認をいたしております。その過程の中でも申し上げておるわけでございますが、跡地がどうい

うとこにあるのかということとは確定をできておらないという状況でございますし、また遺跡の調査が実施され、また文化庁の調査も行っておりますが、なかなか場所の特定ができておらないと何も無いというのが現状でございます。御金蔵の建物構造についても資料なく、詳細が不明であると。文化的な価値のある建物を復元するということは、これは現段階においてはまだなかなか難しいものがあるかというふうに考えておりますが、しかしやっぱり観光面から申しますと金銀山、世界遺産に指定されるということになれば波及的にやっぱり出雲崎にも大きな影響が出るものと期待をしておりますので、そういう施設等の確定ができたならモニュメントとか、何かそういうものを、象徴的なものを設置する必要があるんじゃないかというふうに思っています。ただし、佐渡金山の金銀の荷揚げをされたあの御金蔵を復元というのは、これは到底ちょっと不可能だというふうに考えていますので、しかしそのかわりになる、出雲崎としてここが御金蔵の跡地だというものを明確に示されるような段階を確定しながら対応していかなきゃならんかなというふうには思っていますので、その辺またご理解いただきたいと思えます。

○議長（仙海直樹） 7番、三輪議員。

○7番（三輪 正） いきなり復元をやりましょうということは多分無理だろうということで、あえてなんですが、いずれはそういう時期が来るかと思うので、今のうちにぜひ準備をしていただきたいなと思います。出雲崎も以前に代官所の復元というのはかなり前ですが、その話もありました。実際代官所になりますとかなりの広大な建物になるし、経費もかかるわけです。ただ、同じ代官所でも旧水原町は代官所をつくって、復元しておりますし、佐渡の奉行所も復元して、今使っております。そんなことでぜひ代官所もない、あれもないというんじゃなくて、何かやっぱりそういうふうな象徴するものをぜひ整備していただきたいなと思うわけでございます。そんなことでぜひ今後考えていただきたいということで私の質問を終わります。

○議長（仙海直樹） これで一般質問を終わります。

---

#### ◎散会の宣告

○議長（仙海直樹） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会をいたします。

（午後 2時20分）